

**Victor**Mini **DV** NTSC**DVX**

-
- 第1章 お使いになる前に
 - 第2章 とにかく撮って、とにかく見る
 - 第3章 よりプロっぽく撮る
 - 第4章 思いどおりに再生、かつこよく編集
 - 第5章 ムービーの設定を変える
 - 第6章 付録

目次  3

各部の名前と働き  26

デジタルビデオムービー
GR-DVX
取扱説明書

このたびは、ビクターのデジタルビデオムービーGR-DVXをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

- ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
- お読みになった後も、この「取扱説明書」は保証書といっしょに保管し、本製品のそばなどいつも手元に置いてお使いください。
- 製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は製造番号が記載されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかを、お確かめください。

LYT0001-013C

GR-DVX の特長

●小型、軽量のデジタルムービー

このGR-DVXは、小型、軽量のデジタルムービーです。さまざまな場所で高品質のビデオ撮影がお楽しみいただけます。

●記念写真連動の小型オートフラッシュ内蔵 (P26,52,64)

記念写真撮影時にムービーのセンサーがまわりの明るさを感知して、暗い場所では自動的にフラッシュをたきます。暗い場所での撮影も安心です。

●フルオートモードで簡単撮影 (P44,46)

難しい設定をしなくても、フルオートモードにセットすれば、簡単にビデオ撮影がお楽しみいただけます。

●2.5型液晶画面

撮影中の映像のモニターはもちろん、その場でテープを再生してお楽しみいただけます。

●5つのモードを簡単選択 (P44,55)

フルオートモード、マニュアルモード、5秒撮りモード、セルフタイマーモード、再生モードの切替は、電源ダイヤルを回すだけです。

●高画質、高音質

映像や音をデジタル方式で記録するため、アナログ方式のムービーよりもはるかに高画質です。

●選択ダイヤルで機能設定

選択ダイヤルを回す、押すという2つの操作だけで、ムービーの各種機能を設定することができます。

●スライド式ファインダー (P27,42)

ファインダーは本体からの引き出し式なので、持ち運ぶときなどにじゃまになりません。

●デジタル演出効果 (P73,79)

映像そのものを加工してテープにさまざまな演出をほどこすことができます。

目次

GR-DVX の特長	2
安全上のご注意	6
使用上のご注意	16
この取扱説明書の見方	21

CONTENTS

第1章 お使いになる前に

1.1 付属品を確認してください	24
1.2 アクセサリーキット（別売）	25
1.3 各部の名前とはたらき	26
1.3.1 ムービー	26
1.3.2 バッテリーケース（別売アクセサリーキット）	28
1.3.3 ドッキングステーション（別売アクセサリーキット）	29
1.3.4 リモコン（別売アクセサリーキット）	30
1.4 画面の見方	32
1.5 お使いになる前の準備	35
1.5.1 バッテリーを充電する	35
1.5.2 バッテリーを取り付ける	37
1.5.3 ストラップまたはベルトを取り付ける	37
1.5.4 テープを入れる	38
1.5.5 リモコンに電池を入れる	40
1.5.6 コンセントの電源でムービーを動かす	40
1.5.7 バッテリーケースの電源でムービーを動かす	41
1.5.8 内蔵の時計用電池を充電する	41
1.6 電源の入れ方と撮影モード	42
1.6.1 電源を入れる	42
1.6.2 電源を切る	43
1.6.3 撮影モードを設定する	44

第2章 とにかく撮って、とにかく見る

2.1 ビデオを撮る	46
2.1.1 撮影する	46
●ワンポイント-撮影方法いろいろノウハウ	48
●ワンポイント-知っていると便利。タイムコードと無記録部分	50

2.1.2	ズームして撮影する（ズーム撮影）	51
2.1.3	記念写真を撮る（オートフラッシュ連動記念写真撮影）	52
2.1.4	5秒撮りする（5秒撮り）	53
2.1.5	セルフタイマーで撮影する（セルフタイマー撮影）	54
2.2	テープを再生する	55
2.2.1	ムービーだけで再生する	55
2.2.2	ムービーをテレビやビデオデッキにつないで再生する	57

第3章 よりプロっぽく撮る

3.1	撮影機能を設定する	62
3.1.1	撮影機能の設定メニュー 録画モード、ワイド効果、ズーム、手ぶれ補正、感度アップ、システム設定、日時設定、フラッシュ	62
3.1.2	撮影機能の設定方法	65
3.2	撮影方法を工夫する	66
3.2.1	ピントを手で合わせる（マニュアルフォーカス）	66
3.2.2	明るさを手で調節する（明るさ補正）	68
3.2.3	色のバランスを調節する（白バランス）	70
3.2.4	変化をつけてビデオをつなぐ（場面切替） フェーダー（白、黒、白黒、モザイク）、ワイプ（コーナー、ウインドウ、スライド、ドア、スクロール、シャッター）、オーバーラップ	73
	●ワンポイント-「場面切替」で映像をつないだときの映像効果は？	75
3.2.5	映像に変化をつける（演出効果） シャッター（1/60、1/100、1/250、1/500）、夜景、セピア、ブラック/ホワイト、映画効果、ストロボ、高感度（4倍、10倍）、ゴースト	79
3.2.6	フラッシュの明るさを調節する（フラッシュ明るさ）	83

第4章 思いどおりに再生、かつこよく編集

4.1	思いどおりに再生する	86
4.1.1	再生時の音声を切り替える（48kHz 音声切替 / 32kHz 音声切替）	86
4.1.2	再生画面に日時を表示する（日時表示）	88
4.1.3	再生画面にタイムコードを表示する（タイムコード）	89
4.1.4	再生画面をズームする、画面を移動する	90
4.1.5	再生画面に演出効果を加える	91
4.2	かつこよく編集する	92
4.2.1	テープをダビングする	92
4.2.2	撮影したビデオにナレーションを付ける（アフレコ編集）	93
4.2.3	ビデオに別の場面を挿入する（インサート編集）	95
4.2.4	ビデオを自動で編集する（自動編集）	97

●ワンポイント-知っておきたい自動編集のしくみ	105
4.2.5 より正確に自動編集する(シンクロ補正)	106

第5章 ムービーの設定を変える

5.1 ムービーのシステム設定を変える	110
5.1.1 システム設定メニュー	110
記念写真、シーン、プザー/タリー、ボイスポジション、音声モード、 IDナンバー	
5.1.2 システム設定メニューの設定方法	112
5.2 日時を設定する	114
5.2.1 日時設定メニュー	114
オンスクリーン、日時表示、年月日 時計	
5.2.2 日時設定メニューの設定方法	115

第6章 付属

6.1 日常のお手入れについて	118
6.1.1 ヘッドの汚れを取る	118
6.1.2 ボディの汚れを取る	119
6.1.3 レンズや液晶画面の汚れを取る	119
6.2 海外でお使いになるときは	120
6.3 故障かな? とお考えになる前に	121
6.4 メニュー一覧	124
6.5 わからない言葉があったときは	125
6.6 索引	126
6.7 主な仕様	128
6.8 保証とアフターサービス	130

安全上のご注意

絵記号について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵記号が記載されています。これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵記号の意味をよく理解して本文をお読みください。



危険

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の説明

注意（危険、警告を言む）が必要なことを示す記号



一般的注意



手はさまれる

してはいけない行為（禁止行為）を示す記号



禁止



水場での使用禁止



接触禁止



分解禁止

必ずしてほしい行為（強制、指示行為）を示す記号



一般的指示

プラグをコンセント
から抜く

■煙が出たり、へんな臭いがするときなどは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

- ・販売店に修理を依頼してください。
- ・そのまま使用すると火災や感電の原因となります。
- ・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。



■落したり、壊れたときなどは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

- ・販売店に修理を依頼してください。
- ・そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- ・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。



■内部に水や異物が入ったときは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

- ・販売店に修理を依頼してください。
- ・そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- ・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。



■電源コードが傷んだときは、電源プラグを抜く

- ・販売店に修理を依頼してください。
- ・芯線が露出していたり、断線したままで使用すると、火災や感電の原因になります。



■持ち運ぶときには、付属のハンドストラップを使う

- ・液晶画面、またはファインダーを持って運ぶと、故障したり落として、けがの原因となります。



■不安定な場所に置かない

- ・ぐらついた台の上や傾いた所には置かないでください。
- ・落ちたり、倒れたりして、ムービーの故障やけがの原因となります。



■指定の電源電圧以外で使用しない

- ・火災や感電の原因となります。



■電源コードを傷つけない

- ・火災や感電の原因となります。
- ・次のようなことをすると、傷つく原因となります。ご注意ください。
加工する、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものをのせる、熱器具に近づける



■内部に物を入れない

- ・テープの出し入れ口などから、金属類や燃えやすいものなどを入れないでください。
- ・火災や感電の原因となります。
- ・特にお子様にご注意ください。



■内部の部品に触らない

- ・テープの出し入れ口から見える部品に触らないでください。
- ・感電や故障の原因となります。



■機器を接続するときは、電源を切る

- ・電源を入れたまま接続すると、感電や故障の原因となります。





■分解や改造はしない

- ・火災や感電の原因となります。
- ・お客様ご自身による点検、整備、修理は危険です。絶対おやめください。
- ・内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。



■自動車などの運転中に使用しない

- ・運転をしながら、撮影、再生をすることは絶対におやめください。
- ・交通事故の原因になります。



■レンズやファインダーを太陽や強い光源に向けてない

- ・レンズやファインダーを太陽に向けたまま放置しておくと、集光により内部部品が破損して発熱し、火災や故障の原因となります。



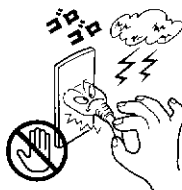
■ぬらさない

- ・火災や感電の原因となります。
- ・風呂場では使用しないでください。
- ・雨天、降雪中、海岸、水辺で使用するときは、ご注意ください。
- ・水などの入った容器（花瓶、植木鉢、コップ、化粧水、薬品など）はこぼれたりしますので、機器の近くに置かないでください。



■雷が鳴り出したら、電源プラグにはふれない

- ・感電の原因となります。



■電源プラグが不完全な接続状態で使用しない

- ・接触不良で発熱し、火災や感電の原因となります。
- ・最後までしっかりと接続してください。



■電源プラグにほこりや金属物を付着させない

- ・ほこりや金属物を伝わって電気が流れ、ショートや絶縁不良で発熱し、火災や感電の原因となります。
- ・ほこりや金属物が付着しているときは、電源プラグを抜き、取り除いてください。



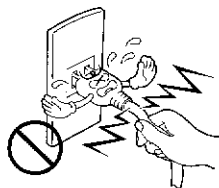
■上に乗らない

- ・倒れたり、こわれたりして、けがの原因になります。特に小さなお子様がいるご家庭ではご注意ください。



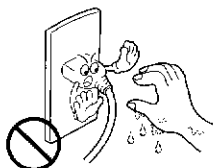
■電源コードはコードの部分を持って抜かない

- ・コードの部分を持って抜くと、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
- ・プラグの部分を持って抜いてください。



■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

- ・感電の原因となることがあります。



■次のような場所には置かない

- ・湿気やほこりの多い所
- ・調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気の当たる所
- ・熱器具の近くなど
- ・真夏の車内など高温になる所
- ・直射日光の強い所
- ・火災や感電の原因となることがあります。



■上に重い物を置かない

- ・バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。



■テープの出し入れ口に手を入れない

- ・手をはさまれてけがをする原因となります。
- ・特にお子様にご注意ください。

**■本体に衝撃を与えない**

- ・けがをするおそれがあります。また、本機が故障する原因となります。

**■指定以外のアクセサリーを使わない**

- ・性能や形状が異なると、火災や故障、感電の原因となることがあります。
- ・本機に指定されたものか確かめ、アクセサリーの取扱説明書もよくお読みください。

**■照明用ライトなどを使うときはライト部に顔、素手、髪の毛などを近づけない**

- ・高温のため、やけどや髪の毛が燃える原因となります。

**■本機やアクセサリーなどを布などでおおった状態で使用しない**

- ・熱がこもって変形したり、火災の原因となることがあります。

**■コード類は正しく配置する**

- ・ACアダプターの電源コードや接続用コードなどは、足にひっかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。
- ・十分注意して接続、配置してください。

**■長期間使用しないときはバッテリーをはずす、または電源プラグを抜く**

- ・電源が「切」でも本機に電気が流れていますので、安全のためにお守りください。



■別売の三脚を不安定な状態で使用しない

- ・足などの上に倒れる、けがをする原因となります。また、本機が故障する原因となります。
- ・足などを引っかけないようにご注意ください。強風にもご注意ください。



■移動するときは、電源プラグや接続コード類をはずす

- ・接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
- ・テープも取り出しておいってください。



■バッテリーやハンドストラップは正しく取り付ける

- ・正しく取り付けられていないと、落下によりけがや故障の原因となることがあります。



■お手入れするときは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

- ・電源が「切」でも機器に電源が流れていますので感電の原因となることがあります。



■5年に一度は内部の点検を販売店に依頼する

- ・内部にほこりがたまったり、長い間掃除をしないで使用し続けると、火災や感電の原因となることがあります。
- ・湿気の多くなる梅雨期の前に点検すると、より効果的です。
- ・費用については、販売店にご相談ください。



■強い電波や磁気の発生する所、または雷が近いときは使用しない

- ・故障の原因となることがあります。
- ・テレビの上や近くでは使用しないでください。
- ・RFユニットやACアダプターを使用しているときは、なるべくムービーから遠ざけてご使用ください。



■飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従う

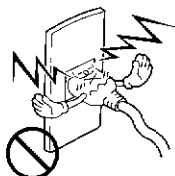
- ・本機が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与える原因となります。



⚠ 危險

■ AC アダプターを指定の電源電圧以外で使用しない

- ・火災や感電の原因となります。



■ AC アダプターは指定以外のムービーやバッテリーには使わない

- ・性能や形状が異なると、火災や故障、感電の原因となることがあります。
- ・指定されたものか確かめ、ムービーやアクセサリーの取扱説明書もよくお読みください。



■ ACアダプターを分解や改造はしない

- ・火災や感電の原因となります。
- ・お客様ご自身による点検・整備・修理は危険です。絶対におやめください。
- ・内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。



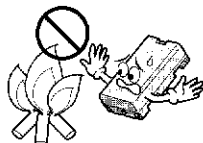
■バッテリーを充電するときは、指定の AC アダプターを使う

- ・性能や形状が異なると、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。



■バッテリーは絶対に分解、加工（はんだ付けなど）、加熱、火中投入などをしない

- ・液漏れ、発熱、破裂、発火し、火災やけがの原因となります。



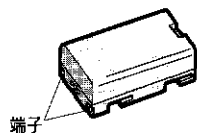
■高温の場所（60℃以上）に置かない

- ・発熱、破裂、発火の原因となります。



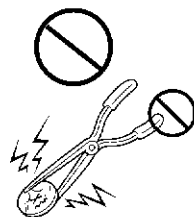
■バッテリーの端子部（⊕と⊖）に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない

- ・ショートして発熱し、火災やけがの原因となります。
- ・持ち運ぶときには付属のキャップを付けてください。キャップがないときはビニール袋などに入れ、金属物と端子が接触しないようにしてください。



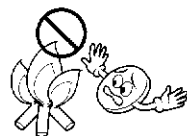
■ボタン電池の端子部（⊕と⊖）に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない

- ・液漏れ、発熱の原因となります。
- ・持ち運びの際にはビニール袋などに入れ、金属物と端子が接触しないようにしてください。



■ボタン電池は絶対に分解、加工（はんだ付けなど）、充電、加熱、火中投入などをしない

- ・液漏れ、破裂などの原因となります。



警告

- ボタン電池は幼児の手の届かない所に置く

- 

⚠ 注意

- 

- ・温度が上がり、長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

使用上のご注意



■ 本機はDV方式のデジタルビデオムービーです。
従来式のビデオ、およびDV方式以外のデジタルビデオとは互換性はありません

■ 電源（バッテリーやACアダプター、およびバッテリーケース）を外すときは、必ず電源が「切」になっていること確認する

- ・ムービーの動作中に電源を外すと、テープを傷めたり誤動作の原因になります。

■ 長時間使用しないときは電源ダイヤルを「切」にする

- ・長時間電源を入れたままにしておくと、ムービーの表面が暖かくなります。長時間使用しないときは電源を「切」にしてください。

■ ムービーを保管するときはテープを出し、電源を切り、バッテリーをはずす

- ・機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて動作を点検してください。

■ ムービーには付属のハンドストラップを必ず使用し、ムービーをしっかりと握る

- ・ハンドストラップを使用していなかったり、しっかり握っていないと、落としたりして故障の原因になることがあります。

■ 液晶画面の表面を強く押したり強い衝撃を与えない

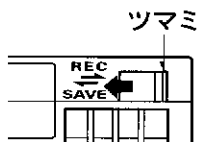
- ・傷がついたり割れたりして故障の原因となることがあります。



- 本機は DV 方式のデジタルビデオムービーです。

Mini **DV** マークの付いたデジタルビデオテープをご使用ください。

- 大切な録画を消してしまわないように注意してください。保存しておきたい録画済みテープは、テープ背面にあるツマミを「SAVE」の矢印方向に引いてください（ツマミを「REC」の方向に引くと、再び録画できます）。



- 大切な録画をするときは、事前に試し撮りを行い、正常に録画、録音されていることをご確認ください。
- 万一、ムービーおよびテープ等の不具合により正常に録画、録音や再生ができなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。
- あなたがムービーで録画、録音したビデオは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 鑑賞や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場所がありますのでご注意ください。
- LP モードで録画されたテープは、他の LP モードのついたデジタルビデオで再生した場合、モザイク状のノイズが出る場合があります。また、LP モードのないデジタルビデオでは正常な再生とはなりません。
- テープは湿気が少なく風通しのよい、カビの発生しない場所に立てて保存してください。



バッテリーについて

■リチウムイオンバッテリーの特性

- リチウムイオンバッテリーは小型で高容量のバッテリーです。しかし、冬場の屋外などの低温（10℃以下）でバッテリーが冷えている場合、バッテリーの使用時間が短くなる特性があり、動作しないことがあります。このような時は、バッテリーをポケットに入れるなどして温かくし、撮影前にムービーに取り付けてください。バッテリー自体が冷えていなければ、ムービーの動作上問題ありません（カイロなどをご使用になっている場合は、直接カイロがバッテリーに触れないようにご注意ください）。

または、別売のVU-V95KITに付属のバッテリーケースCU-V900のご使用をおすすめします。



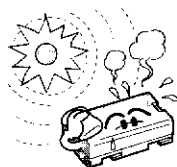
■リチウムイオンバッテリーの保存

- 充電された状態で長期間保存すると特性が劣化することがあります。
- しばらく使わない場合は、使い切った状態で保存してください。

＜残りの容量を使い切るには＞

- ①テープを入れずに電源を入れる。
- ②ムービーの電源が自動的に切れたらバッテリーを取り出す

- 長期間保存する場合は、年に一回程度充電した後、使い切ってから保存してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをムービーやACアダプターから取り外してください。
 - 付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、過放電になり使用できなくなる恐れがあります。
- キャップを付けて、涼しい所で保存してください。
 - 周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥した所をおすすめします。
 - 暑い所や極端に寒い所は避けてください。



つゆつきについて

よく冷えたビールをコップに注ぐと、コップのまわりに徐々に水滴が付着します。この状態を「つゆつき」と言います。ムービーでつゆつきが発生すると、心臓部のヘッドドラムのまわりに水滴が付着し、テープが貼り付いてしまいます。

■つゆつきはこんなときに起こります

- ・ムービーを寒いところから急に暖かいところに移動したとき
- ・湿気の多い場所でムービーを使用しているとき
- ・暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷風がムービーに直接当たるとき



■つゆつきが発生すると

- ・液晶画面にが表示され、ムービーが停止します。テープの出し入れもできません。
- ・通常、つゆつきは徐々に発生するため、10～15分間はなどが表示されないことがあります。が出る前でもレンズや保護ガラスに水滴が付いているときはヘッドドラムにも水滴が付着している可能性がありますので、テープカバーを開けないでください。
- ・つゆつきはレンズにも発生します。レンズに水滴が付着しているとききれいに撮影できませんので、つゆつきがなくなってから撮影してください。

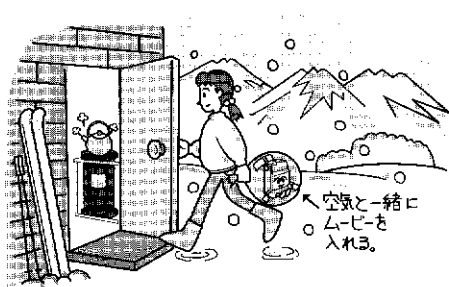


■つゆつき後再び使い始めるときは

- ・電源を切って1時間以上待ちます。その後、電源を入れて数分待ち、が消えてからご使用ください。が消えないときは点検が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。
- ・寒冷地帯では露が凍結し、霜になることがあります。寒冷地帯ではが消えるまでに、さらに時間がかかることがあります。

■つゆつきのトラブルを防ぐには

- ・ 寒いところから暖かいところ、冷風の効いたところから温度、湿度の高い場所に移動したときは、ムービーとテープをしばらく放置して、使用する環境になじませてからご使用ください。
- ・ 例えばスキー場で撮影後、暖房の効いた部屋に入るときは、ビニール袋等に空気といっしょにムービーを入れ、しばらくその状態で部屋になじませてからご使用ください。



時計用電池について

日時を記憶するために充電式の電池が内蔵されています。ムービーに、バッテリーやACアダプターなどの電源を接続すると常に充電されますが、使わずに保管していると約3ヵ月で放電され、日時が消えてしまいます。このようなときは、24時間以上ACアダプターなどの電源を接続してください。電源の入/切に関係なく電池が充電されますので、日時を合わせてムービーをお使いください。日時の合わせ方については、114ページをご覧ください(日時を合わせなくても、ムービーで撮影をすることはできます)。

この取扱説明書の見方

本文の考え方

タイトル

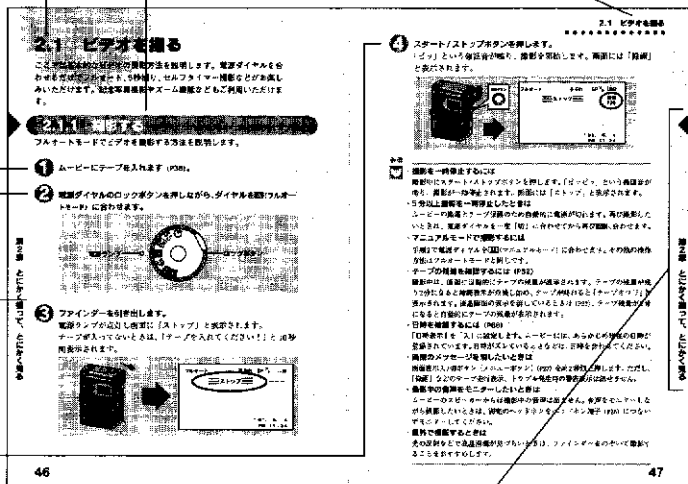
メニューや使用目的ごとにタイトルをまとめています。

小タイトル

操作目的ごとのタイトルが付けられています。

ヘッダー

ページが小タイトルや見出しなどから始まる
ときに、タイトルを記載します。



2.1.1 网络

「これは、オーストラリアの『シドニー・オペラハウス』だ。この建物には、世界で最も美しいデザインと、最先端の技術が融合している。まるで、芸術と科学の結晶のようなものだ。」

- ② 液晶ディスプレイのロックボタンを押しながら、ダイヤルを時計方向（右）に回ります。

- ③ ファインダーを覗き出します。
電圧ランプが点灯し画面に「ストップ」と表示されます。
ケーブルが入っていないときは、「ケーブルを入れてください!」と表示
面表示されます。

[illegible]

4 スタート/ストップボタンを押します。
「ビッ」という短音が鳴り、撮影を開始します。画面には「録画」と表示されます。



撮影を一時停止するには
再生中にスタート/ストップボタンを押します。「パジャマ」という韓国語が
表示され、撮影が一時停止されます。再度「パジャマ」と表示されると、

・5分以上撮影を一時停止した場合は
 フォーミーの充電とテープ保護のため自動的に電源が切れます。再び撮影したいときは、電源ダイヤルを一定「切」に合せてから再び撮影に合せてます。

- ・マニュアルモードで撮影するには
手帳で電源ダイヤルを「M」(マニュアルモード)に合わせます。その他の操作
方は、フルオートモードと同じです。
- ・テープの巻戻しを確認するには (P32)

撮影中は、画面が自動的にタープの位置が追跡されます。タープの位置が焼くまでになると時間表示がゼロになり、タープが降れると「タープオフ」が表示されます。液晶画面の裏面を削いているときは (222)、タープ位置がゼロになると自動的にタープの位置が追跡されます。

「日時を補填するには (P68)

「日時表示」を「入」に設定します。ムービーには、あらかじめ特定の日時が登録されています。日時がズレていることなどは、日時を修正してください。

・ 動物のメロデーを聴きたいときは
州通信局のラジオサービス（PR）に電話して申し込めます。ただし、
「放送」などのテーマを指定し、トピック発生時の警報表示は受けません。

・屋外で撮影するとき

先の反対などで、且西側が見づらい(5)は、ファインダーを覗いて撮影
ることをおすすめします。

47

操作手順

操作方法を順番に説明します。

インデックス
扉で区切られた章
タイトルを示して
います。

本文中の記号の見方

注意



本機を取り扱う上で、ご注意していただきたい内容をまとめています。必ずお守りください。

お願い



本機を取り扱う上で、お願いしたい事項です。必ずお守りください。

参考



本機を取り扱う上で知っていると便利な情報をまとめています。必要に応じてお読みください。

参照



本書の参照項目や参照ページを示しています。

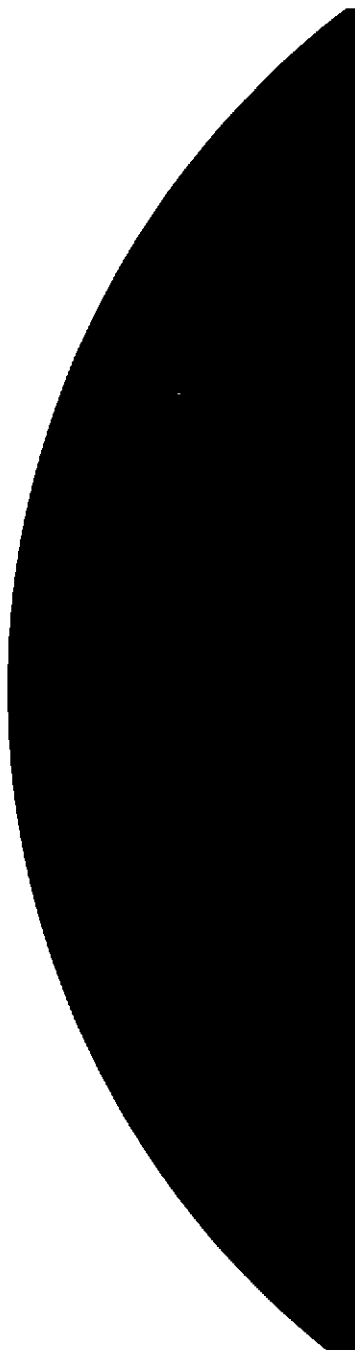
ワンポイント



必要に応じて、本機の使用方法などに関するノウハウをまとめて説明しています。

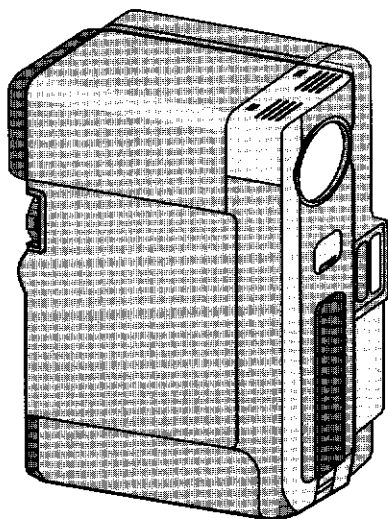
お使いになる前に

ここでは、お買い上げいただいたムービーの付属品や、ムービー本体の名称と機能、およびお使いになる前の準備を説明します。また、機能を最大限に引き出すために必要なメニューの設定方法についても説明します。



1.1 付属品を確認してください

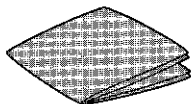
お買い上げの付属品に足りないものがあつた場合は、お買い上げの販売店などへご連絡ください。



ムービー



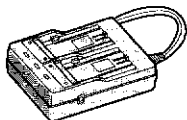
ハンドストラップ



クリーニングクロス

1.2 アクセサリーキット (別売)

ムービーをご利用になるためには、別売のアクセサリーキット (VU-V95KIT) をお求めいただく必要があります。



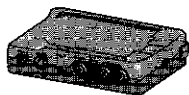
ACアダプター/
チャージャー
AA-V90
(ACアダプター)



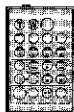
DCコード
長さ: 約1.5m



バッテリーパック
BN-V907
(バッテリー)



ドッキングステーション



リモートコントロール
RM-V711 (リモコン)



リモコン用
ボタン電池
CR2025



映像/音声コード
ピンプラグ×3
▶ピンプラグ×3
長さ: 約1.5m
ドッキングステーションとテレビ、またはビデオ接続用



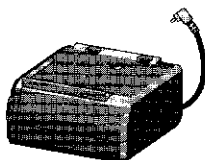
映像/音声コード (3.5φ)
3.5φミニプラグ
▶ピンプラグ×3
長さ: 約1.5m
ムービーとテレビ、またはビデオ接続用



S映像コード
長さ: 約1.5m
ドッキングステーションとS映像対応のテレビ、またはビデオ接続用



編集コード
長さ: 約1.5m
自動編集用



バッテリーケース
CU-V900



グリップベルト

参考



・ムービーをお使いになる前に

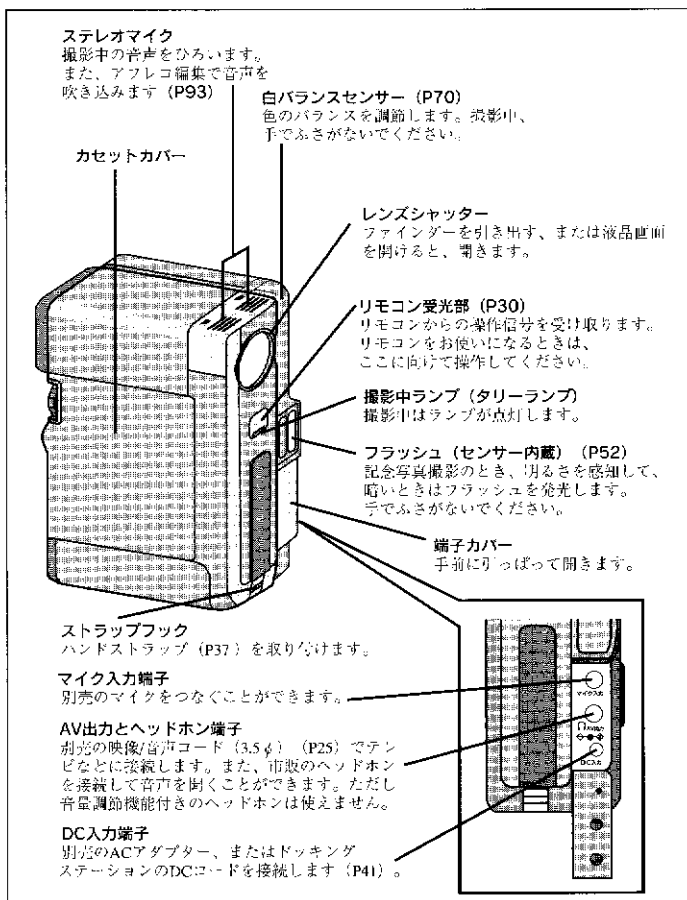
アクセサリーキットの取扱説明書もあわせてお読みください。

1.3 各部の名前とはたらき

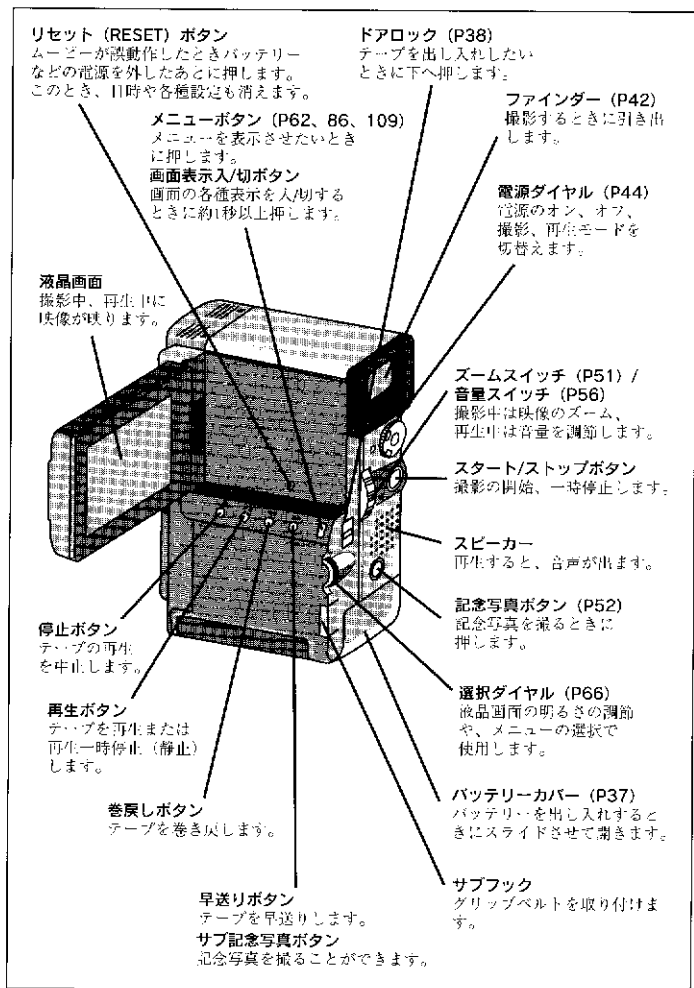
ここでは、ムービー、および別売のアクセサリキットに含まれるバッテリーケースとドッキングステーション、リモコンの各部の名前と機能を簡単に説明します。

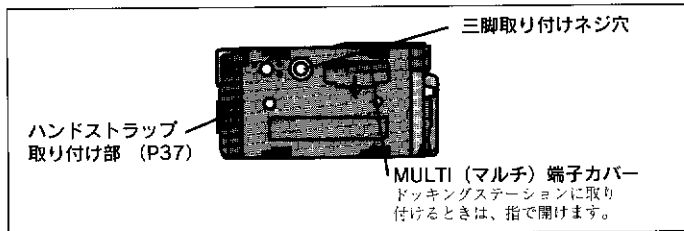
1.3.1 ムービー

（レンズ側）



ファインダー側





注意

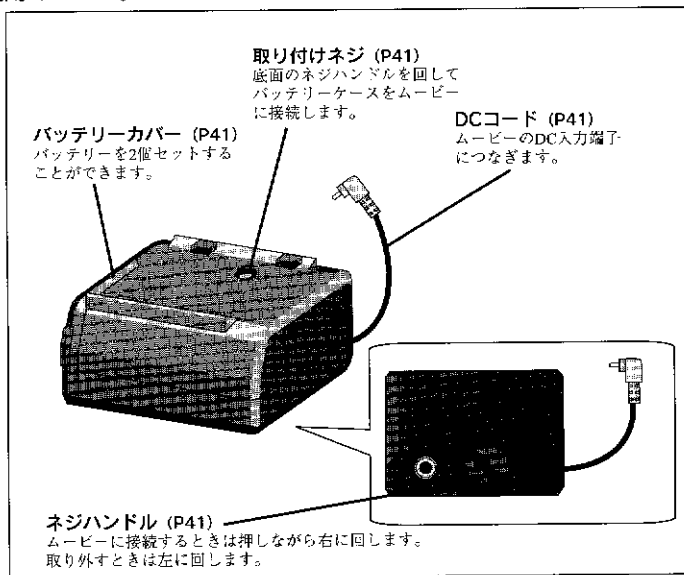


- MULTI (マルチ) 端子には触れないでください

カバーの中の端子を直接手で触ったりしないでください。接触が悪くなり、
使えなくなることがあります。

1.3.2 バッテリーケース (別売アクセサリキット)

バッテリーを2個セットすることができます。長時間撮影するときなど
にご使用ください。



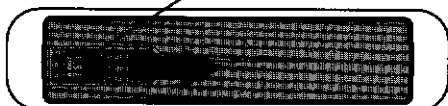
1.3.3 ドッキングステーション (別売アクセサリキット)

別売のアクセサリキットにあるドッキングステーションを使って、テープの編集 (P92) を行います。

MULTI (マルチ) 端子 (P58)
ムービーとドッキングステーションを接続します。

ロックレバー (P58)
ロックレバーを矢印方向に引いてドッキングステーションとムービーを接続します。ムービーを取り外すときは、レバーのまん中のロック解除ボタンを押し、矢印と反対方向にスライドさせます。

DC入力端子 (P58)
DCコードを使って、ACアダプターに接続します。



(反対面)

S2 (映像) 出力端子 (P59、100)
S映像信号を出力します (S、S1、S2端子に対応)。S映像コードを使ってテレビやビデオに接続します。

JLIP端子
JLIP対応機種をつなぐための端子です。別売のJLIPプレーヤーバックなどを使ってパソコンでムービーを動かすときに使います。

編集端子 (P100)
編集コードを使ってリモコンまたはビデオデッキを接続します。

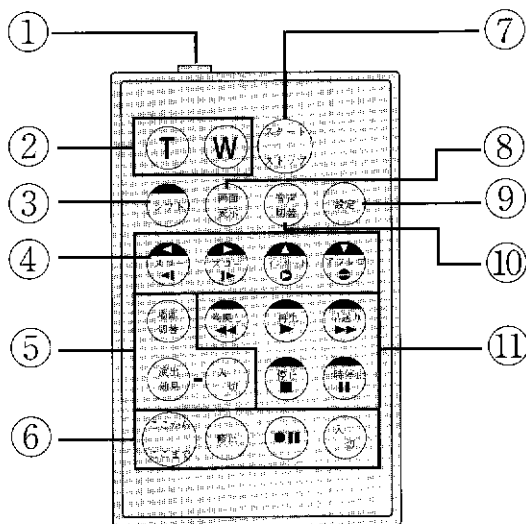
音声出力端子 (P59、100)
音声を出力する端子です。

DC出力端子
アフターサービス用端子です。

映像出力端子 (P59、100)
映像コードを使ってテレビやビデオに接続します。

1.3.4 リモコン (別売アクセサリキット)

別売のアクセサリキットにあるリモコンを使って、テープの再生中や編集中に、ムービーをリモートコントロールすることができます。ムービーのリモコン受光部 (P26) に向けて使用します。



参考



リモコンの操作方法は

操作範囲は屋内で約5mです。

ムービーのリモコン受光部 (P26) に向けて操作してください。

角度によっては操作できない場合があります。

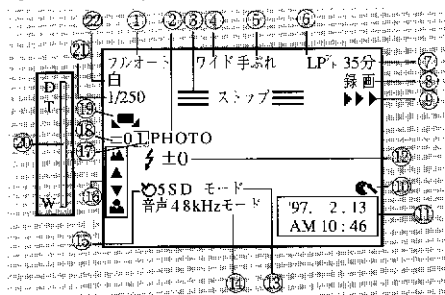
また、ムービーのリモコン受光部に直射日光や照明の強い光が当たるとムービーが誤動作したり、動作しないことがあります。

	ボタン名	ボタンの機能
①	リモートボーズ (入力) 端子 (P100)	編集コード (P25) でリモコンとドッキングステーションを接続します。
②	 [T] ズームボタン (P51、90)	[T] を押すと映像が大きくなります。
	 [W] ズームボタン (P51、90)	[W] を押すと映像が小さくなります。
③	 シフトボタン (P90、99)	拡大した再生映像を上下左右に動かすときに、押します。また、ビデオデッキを操作するときに押します。
④	 スロー (逆転) ボタン 左ボタン (P56、90)	テープをスローで巻き戻し再生します。また、再生ズームした映像を左に動かします。
	 スロー (正転) ボタン 右ボタン (P56、90)	テープをスローで再生します。また、再生ズームした映像を右に動かします。
	 インサートボタン/上ボタン (P90、95)	ビデオのインサート編集を行います。また、再生ズームした映像を上 to 動かします。
	 アフレコボタン/下ボタン (P90、93)	ビデオのアフレコ編集を行います。また、再生ズームした映像を下に動かします。
⑤	 場面切替ボタン (P73、101)	ビデオの自動編集集中に使用したい場面切替効果を選択します。
	 演出効果ボタン (P102)	ビデオの再生中や自動編集集中に使用したい演出選択をします。
	 演出効果入/切ボタン (P91)	ビデオ再生映像に演出効果するときに押します。
⑥	 ここから/ここまでボタン (P101)	自動編集の開始と終了を指定するときに使用します。
	 修正ボタン (P104)	自動編集を修正するときに使用します。
	 ビデオ準備ボタン (P103)	自動編集でビデオを録画停止にします。
	 入/切ボタン (P101)	自動編集をするときに押します。
⑦	 スタート/ストップボタン (95、103)	撮影のスタート/ストップを行います。
⑧	 画面表示ボタン	テレビに出てくるメッセージを出したり、消したりします。
⑨	 音声切替ボタン (P87)	再生時の音声を切り替えます。
⑩	 設定ボタン (P97)	編集に使用するビデオデッキのメーカーを設定します。
⑪	 巻戻しボタン	巻き戻すときに押します。
	 再生ボタン	再生するときに押します。
	 早送りボタン	早送りするときに押します。
	 停止ボタン	停止するときに押します。
	 一時停止ボタン	一時停止するときに押します。

1.4 画面の見方

ビデオの撮影中や再生中に液晶画面に表示される各種メッセージを説明します。また、警告メッセージもまとめて説明します。

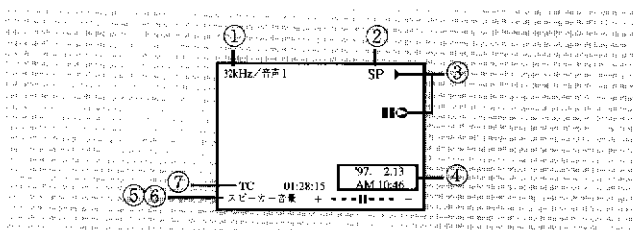
● 撮影中



番号	表示内容	参照
①	撮影モードが表示されます。	P44
②	記念写真撮影中に表示されます。	P52
③	撮影一時停止中に表示されます。	P47
④	ワイド、シネマ撮影中に表示されます。	P62
⑤	手ぶれ補正中に表示されます。	P62
⑥	録画モード (SP/LP) が表示されます。	P62
⑦	テープの残量をお知らせします。 対面撮影中 (P49) は、テープ残量が2分になるとお知らせします。 ※ 2分 → 1分 → 0分	—
⑧	撮影中に表示されます。	—
⑨	テープが動いているときに表示されます。	—
⑩	ボイスポジション機能で風の音などをカットして撮影しているときに表示されます。	P110
⑪	日時が表示されます。	—
⑫	フラッシュの光る準備ができているときに表示されます。フラッシュの明るさを調節しているときは横に数字が表示されます。	P52、 62

番号	表示内容	参照
⑬	5秒撮りやアニメ撮影中に表示されます。	P53、110
⑭	撮影時の音声モードが表示されます。	P110
⑮	セルフタイマー撮影中に表示されます。	P54
⑯	マニュアルモードでピントを合わせているときに表示されます。	P66
⑰	撮影する画面の明るさを固定したときに表示されます。	P70
⑱	撮影する画面の明るさを補正しているときに表示されます。	P68
⑲	撮影する色の調節(白バランス)をしているときに表示されます。	P68
㉔	ズーム中に表示されます。	P51
㉕	選択している演出効果が表示されます。	P79
㉖	選択している場面切替効果が表示されます。	P73

再生中



番号	表示内容	参照
①	再生している音声のモードが表示されます。	P110
②	再生しているテープの録画モードが表示されます。	P62
③	テープが動いているときに表示されます。 ▶ 再生 II▶ スロー ○ インサート ▶▶ 早送り ◀◀ 逆スロー ● アフレコ ◀◀ 巻戻し II 静止	P55、86
④	日時が表示されます。	P88
⑤	スピーカー音量が表示されます。	P27
⑥	スピーカー音量と同じ位置に、「画面明るさ」が表示されます。	P27
⑦	タイムコードが表示されます。	P50

警告表示 (撮影中、再生中)

表示	表示内容	参照
	バッテリーの残量を表示します。 残量大 → → → 残量なし バッテリーが少なくなると が点滅します。 バッテリーがなくなると自動的に電源が切れます。	—
	テープが入っていないときや、テープの誤消去防止用ツマミが「SAVE」側にあるときに表示されます。	—
	撮影中に、ヘッドにゴミが付いていると表示されます。	—
	つゆつきが発生したときに表示されます。ムービーは自動的に停止します。	P19
テープを入れて下さい！	テープが入っていないときに、電源を入れると約10秒間表示されます。	—
テープオワリ	録画や再生中に、テープが終わると表示されます。	—
日時を設定してください！	日時が設定されていないときに表示されます。	P114
音声アフレコできません！	アフレコ編集できないときに表示されます。	P93
インサート録画できません！	インサート録画できないときに表示されます。	P95
E01～07	ムービーに生じたトラブルを判断するための表示です。 E01～07が表示されるとムービーは自動的に停止します。バッテリーなどの電源を外してリセットボタンを押してください。数分待ち、再び電源を入れても表示が消えないときは、お買い上げ販売店か、ビクターサービス窓口にご相談ください。	P27

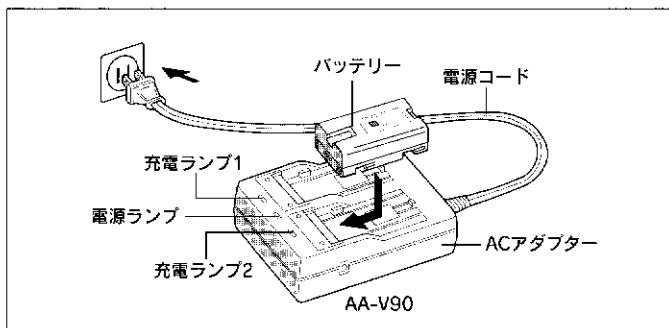
1.5 お使いになる前の準備

ここでは、ムービーをお使いになる前に行っていただきたい準備作業、および撮影前のムービーの調節方法などを説明します。

バッテリーは、使い切っていない状態でも追加充電できます。また、バッテリーは2個を連続に充電できます。

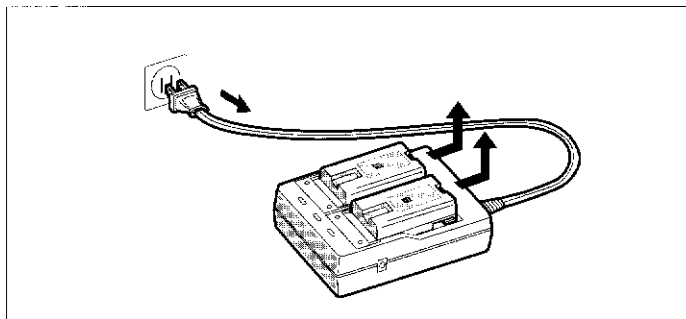
- 1 別売のACアダプターAA-V90の電源コードをコンセントにつなぎます。
電源ランプが点灯します。

- 2 ACアダプターにバッテリーを差し込みます。
バッテリーのキャップを外し⊕⊖マークを下にして、ACアダプターの⊕⊖マークに合わせてカチッと音がするまで差し込んでください。充電ランプ（1または2）が点滅し、充電し始めます。充電ランプが点滅から点灯に変わったら充電完了です。



③ ACアダプターからバッテリーを外します。

充電が終わったらバッテリーをはずし、ACアダプターの電源コードをコンセントから抜きます。



参考



・充電時間の目安は

- ・ 1個充電時間 約 100 分
- ・ 2個充電時間 約 200 分

* 室温 20 ～ 25℃で充電した場合

・ACアダプターにDCコード (P25) を接続しているときは

バッテリーの充電はできません。

・バッテリーを充電するときの室温は

10 ～ 30℃の室温で充電してください。低温 (10℃以下) で充電すると、十分充電されないことや、充電に時間がかかることがあります。

・充電直後でもバッテリーの使用時間が大幅に短くなったときは

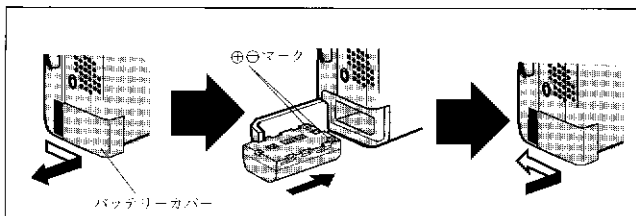
バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

・撮影時間の目安は

バッテリー1個で可能な連続撮影時間は、約45分です (気温20℃でファインダーを使って撮影した場合/液晶画面使用時は約40分)。液晶画面やズームを使ったり、撮影一時停止を繰り返すなどで、撮影時間が短くなります。バッテリーは撮影予定時間の約3倍ぶんをご用意されることをおすすめします。低温 (10℃以下) でも、撮影時間が短くなります。

バッテリー取り付けを説明します。

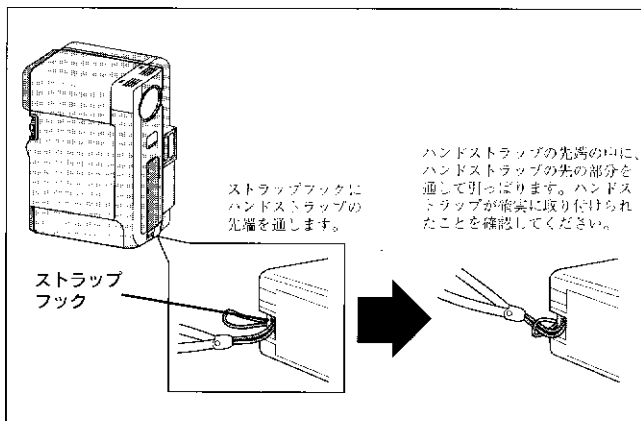
- 1 バッテリーカバーを開け、ムービーにバッテリーを取り付けます。
バッテリーのキャップを外し⊕⊖マークが裏になるようにして入れてください。



- 2 バッテリーカバーを閉めます。
バッテリーカバーを引きながら閉め、左に押し込みます。

落下防止のため、ムービーにはハンドストラップまたはグリップベルトを取り付けてご使用ください。

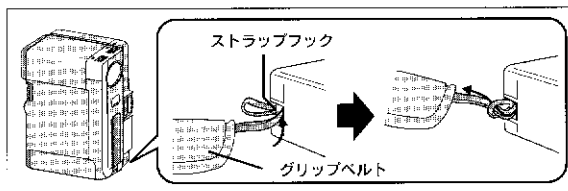
● ハンドストラップを取り付ける ●



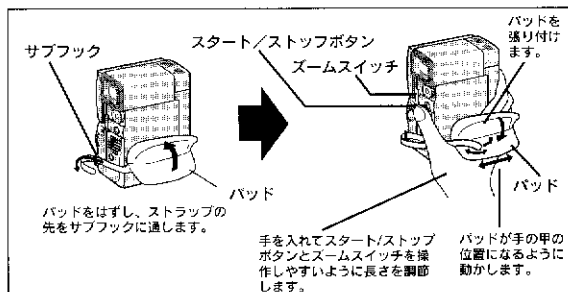
グリップベルトを取り付ける

グリップベルトを取り付けるときは、ハンドストラップを取り外してください。

- 1 ストラップフックにグリップベルトの先端を通し、その輪の中にもう一方の先端を通して引っぱります。

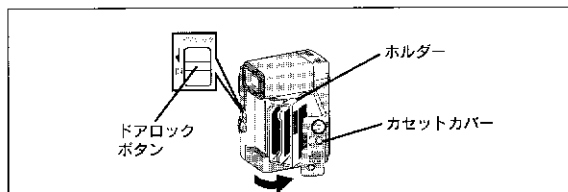


- 2 パッドを取り付けて、操作しやすいように調節します。

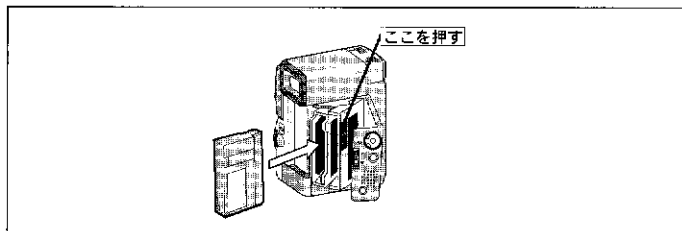


ムービーにテープを出し入れする方法を説明します。テープの出し入れは、バッテリーが入っている状態で行ってください。

- 1 ドアロックボタンを下に押して、手でカセットカバーを開きます。数秒後に自動的にホルダーが開きます。



- 2** テープの見える窓を外側にしてホルダーに入れ、**ここを押す**を押します。
自動的にホルダーが収納されます。



- 3** カセットカバーを閉めます。



- 内部の部品を直接手で触らないでください
感電や故障の原因となります。

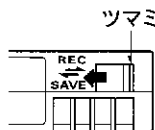


- ホルダーに指をはさまないようにしてください
けがや故障の原因になります。ホルダーに指をはさんだときは、数秒後に自動的にホルダーが開きます。

お願い

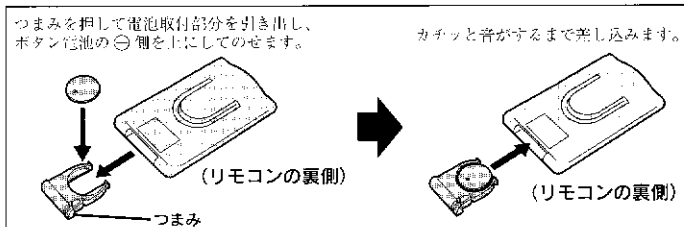


- 無理にホルダーからテープを出し入れしないでください
ホルダーは電源がないと動作しません。ホルダーの動作中に電源が切れたときは、無理にホルダーからテープを出し入れしないでください。故障の原因になります。
- 無理にホルダーを開かないでください
ホルダーが開くには数秒かかります。自動的にホルダーが開くまでお待ちください。無理にホルダーを開くと故障の原因になります。
- 大切な録画テープを誤って消さないようにするには
大切な録画テープは、必ずテープ背面のツマミを「SAVE」の方向にセットしてください。間違えてムービーにテープをセットしても録画されません。
- 寒い場所から急に暖かい場所にムービーを移したときは
しばらくムービーを放置して、環境になじませてからテープを出し入れしてください。



リモコンに電池を入れる

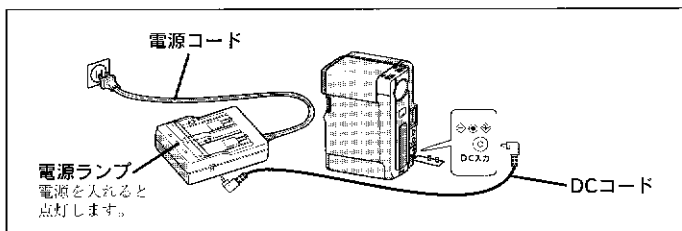
リモコンにボタン電池を入れてください。



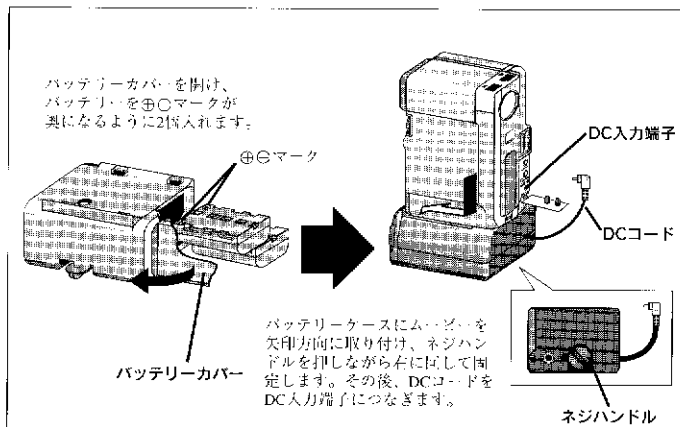
1.5.6 コンセントの電源でムービーを動かす

ムービーを室内で動かしたいときは、ACアダプターを使ってコンセントから電源を取ると便利です。ACアダプターは変換プラグ (P120) を使用すれば、海外でもご利用いただけます。

- 1 ACアダプターの電源コードをコンセントにつなぎ、DCコードを使ってACアダプターとムービーを接続します。



長時間撮影するときは、別売のアクセサリキットにあるバッテリーケースをご使用ください。



参考



・ (バッテリー残量表示) が出たときは

バッテリーが少なくなっています。バッテリーがなくなると自動的に電源が切れます。

・バッテリーケースを使っているときは

ムービー内に取り付けたバッテリーは使えません。ムービー内のバッテリーを使うときは、DCコードを抜いてください。

1.5.8 内蔵の時計用電池を充電する

ムービーを使わずに保管していると約3カ月でムービーに内蔵の時計用電池は放電します。

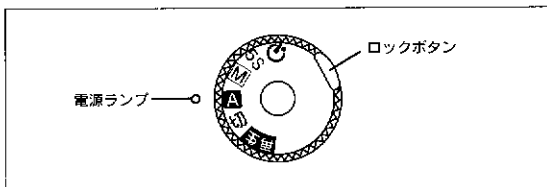
"日時を設定して下さい！"という表示が出たら、24時間以上ACアダプターなどの電源を接続してください。ムービーの電源を入れなくても内蔵の時計用電池が充電されます。

1.6 電源の入れ方と撮影モード

ここでは、ムービーの電源の入れ方と、撮影モードの設定方法を説明します。

ビデオを撮り始める前に、電源を入れ、ファインダー、または液晶画面をセットしてください。

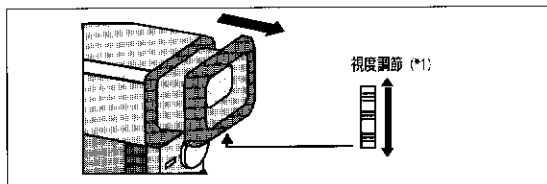
- ① ロックボタンを押しながら、電源ダイヤルを回します。
撮影するときは、**A** **M** **[5S]** のいずれかを電源ランプの位置に合わせます。
再生するときは、**再生** に合わせます。



- ② ファインダーまたは液晶画面を準備します。

＜ファインダーを引き出す＞

止まるまで引き出すとレンズシャッターが開き電源が入ります。ファインダーをのぞきながら撮影を行ってください。

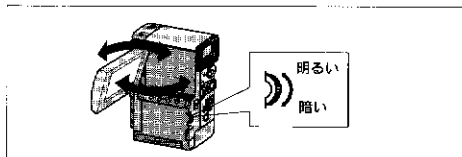


*1 〈視度調整〉
ファインダー内の表示が見やすくなるように、視力に合わせて調節してください。
ファインダー内のゴミを取るには「**6.13 レンズや液晶画面の汚れを取る**」(P119)

液晶画面を開く

液晶画面を90°開くと、レンズシャッターが開き電源が入ります。ファインダーが引き出されていると、液晶画面は使えません。ファインダーを中に入れてください。液晶画面は上に180°、下に90°回転します。見やすいように調節してください。

〈明るさ調節〉選択ダイヤルで液晶画面の明るさを調節してください。選択ダイヤルを数回まわしたあとに、液晶画面明るさ調節表示が動きます。



注意

- ✕ ファインダーと液晶画面の使い方は同時に画面は出ません。

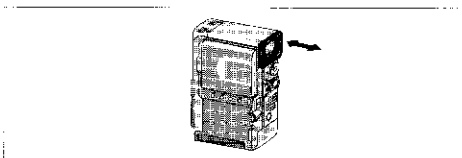
ここでは、電源を切って撮影を終了する方法を説明します。電源を切るときは、ファインダーを入れるか電源ダイヤルを「切」に合わせます。

ファインダーを入れる

電源ランプが消えます。液晶画面を使っているときは、液晶画面を閉じます。

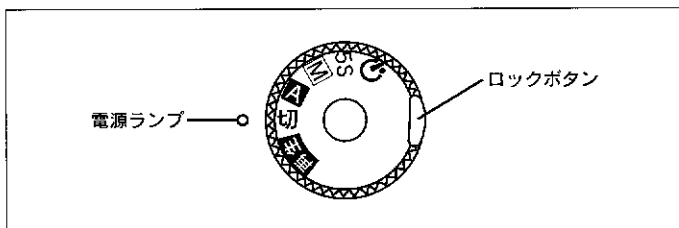
参考

- 📖 長時間使わないときは電源ダイヤルを「切」に合わせてください。このときマニュアルフォーカス(P66)と明るさ補正(P68)はオートになります。
- 電源ダイヤルが **A**、または **M** のままファインダーを入れたときはファインダーを引き出すと再び電源が入ります。



【電源ダイヤルを「切」に合わせる】

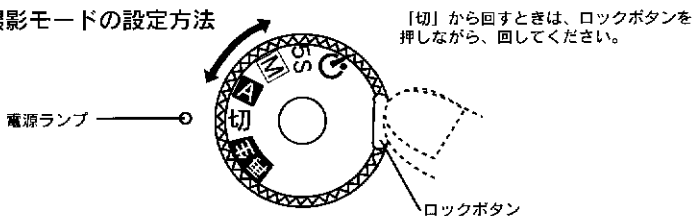
電源ダイヤルのロックボタンを押さなくても電源ダイヤルは回ります。



1.6.3 撮影モードを設定する

ムービーには**A**（フルオートモード）、**M**（マニュアルモード）、**5S**（5秒撮りモード）、**⌚**（セルフタイマーモード）の4つの撮影モードがあります。

●撮影モードの設定方法



●各モードの概要

撮影モード	モードの概要	参照ページ
A フルオートモード	ムービーの設定をなにも行わずに、ビデオ撮影が楽しめるだけです。普通のスナップ撮影に最適なモードです。	P46
M マニュアルモード	撮影方法を細かく設定することができます。フルオートモードでの撮影では物足りなくなってきたときなどは、どんどんご活用ください。	P62
5S 5秒撮りモード	自動的に5秒間だけ撮影を行うモードです。旅先で5秒撮りモードに設定しておいて、ランダムに名所などを撮影していくなど、さまざまな用途でご利用いただけます。各種設定は、フルオートモードと同じになります（ただし白バランスは設定された状態のままです）。	P53
⌚ 15秒セルフタイマーモード	ムービーを固定して、みんなが写ったビデオを撮りたいときなどにご利用いただけます。カメラのセルフタイマーと同じ原理です。	P54

とにかく撮って、 とにかく見る

ムービーはむずかしい設定をしなくても、フルオートモードですぐにご利用いただけます。

ここでは、フルオートモードでビデオを撮影する方法と、撮ったビデオの基本的な再生方法を説明します。

参考



- ・フルオートモードでビデオを撮影する前に「1.5 お使いになる前の準備」(P35)を参照して、必ずムービーの準備を行ってください。

参照



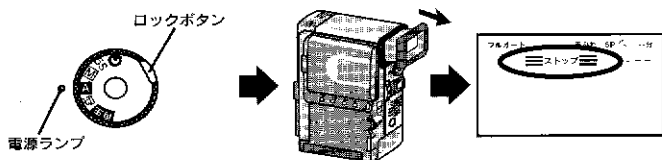
- ・設定を変えてビデオを再生するには「4.1 思いどおりに再生する」(P86)
- ・ビデオを編集するには「4.2 かつこよく編集する」(P92)
- ・ムービーのその他の設定を変えるには「第5章 ムービーの設定を変える」(P109)

2.1 ビデオを撮る

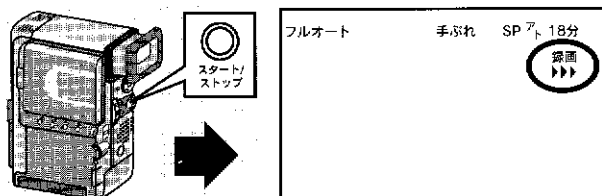
ここでは基本的なビデオの撮影方法を説明します。電源ダイヤルを合わせるだけでフルオート、5秒撮り、セルフタイマー撮影などが楽しめます。記念写真撮影やズームなどもご利用いただけます。

フルオートモードでビデオを撮影する方法を説明します。

- ① ムービーにテープを入れます (P38)。
- ② 電源ダイヤルのロックボタンを押しながら、ダイヤルを **A** (フルオートモード) に合わせます。ファインダーを引き出します。電源ランプが点灯し画面に「ストップ」と表示されます。テープが入ってないときは、「テープを入れて下さい!」と10秒間表示されます。



- ③ スタート/ストップボタンを押します。「ピッ」という確認音が鳴り、撮影を開始します。画面には「録画」と表示されます。撮影中は、撮影中ランプ (タリールランプ) が点灯します。





・液晶画面で撮影するには

ファインダーを入れ、液晶画面を開いてください。

・撮影を一時停止するには

撮影中にスタート/ストップボタンを押します。「ゴッピッ」という確認音が鳴り、撮影が一時停止されます。画面には「ストップ」と表示されます。

・5分以上撮影を一時停止したときは

ムービーの節電とテープ保護のため自動的に電源が切れます。再び撮影したいときは、ファインダーを一度入れ、再び引き出してください。液晶画面をお使いのときは、液晶画面を一度閉じ、再び開いてください。

・マニュアルモードで撮影するには

手順2で電源ダイヤルを[M](マニュアルモード)に合わせます。その他の操作方法はフルオートモードと同じです。

・テープの残量を確認するには (P32)

撮影中は、画面に自動的にテープの残量が表示されます。テープの残量が残り2分になると時間表示が点滅し始め、テープが終わると「テープオワリ」と表示されます。液晶画面の表示を消しているときは(P27)、テープ残量が2分になると自動的にテープの残量が表示されます。

・日時を確認するには (P88)

「日時表示」を「入」に設定します。ムービーには、あらかじめ現在の日時が登録されています。日時がズレているときなどは、日時を合わせてください(P114)。

また、内蔵の時計用電池が放電している場合、日時の登録が消えてしまいます。内蔵の時計用電池を充電してから(P20)、日時を合わせなおしてください(P114)。

・画面のメッセージを消したいときは

画面表示入/切ボタン(メニューボタン)(P27)を約1秒以上押します。ただし、「▶▶▶」などのテープ走行表示、トラブル発生時の警告表示は消えません。

・撮影中の音声をモニターしたいときは

ムービーのスピーカーからは撮影中の音声は出ません。音声を聞きながら撮影したいときは、別売のヘッドホンヘッドホン端子(AV出力端子)(P26)につないで聞いてください。このとき音量は再生時に調節(P56)したままとなります。

・屋外で撮影するときは

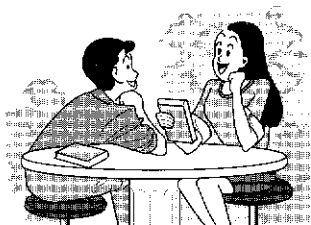
光の反射などで液晶画面が見づらいときは、ファインダーをのぞいて撮影することをおすすめします。



撮影方法いろいろノウハウ

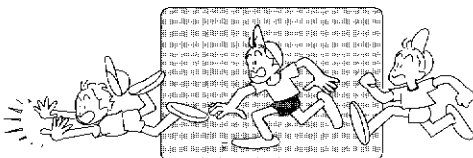
●テーマを決めて撮る

「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」を決めて撮影するようにすると、より楽しい映像ができあがります。



●ムービーは動かさない

安定した画面を撮るために、画面の中の人があってもムービーを動かさない。これも立派なテクニックの1つです。



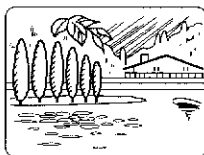
●カメラリハーサルを行う

電源ダイヤルを **A**、**M**、**[5S]**、**Ⓢ** にすれば、テープを入れなくてもムービーで撮っている映像を見ることができます。この状態で映像/音声コードをつなげば外部映像機器に出力することができます。

(接続のしかたは57ページ)

●見るときのことを考えて撮る

1つの画面にさまざまなものが映っているときは、見る人がすみずみまで見られるくらいの時間をかけて撮ります。反対に1目で見てわかるアップ映像などは短めに撮ります。



長めに撮影

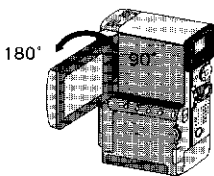


短めに撮影

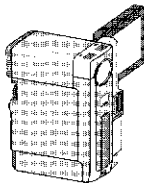
●いろいろなアングルで撮影する

液晶画面は上に180°、下に90°回転します。液晶画面にご自分を映し、映り具合を見ながら撮影することもできます(対面撮影)。液晶画面を開いて180°回転させ、レンズをご自分に向けて撮影してください。ビデオ日記などをお撮りになりたいときにご利用いただけます。

(角度の調節方法)



(対面撮影)



参考



対面撮影中の液晶表示は

対面撮影中、液晶画面には鏡に映ったような映像になります。▶▶▶などのアプワイプ表示と、バッテリーにトラブルが生じたときの警告表示が表示されませんが、

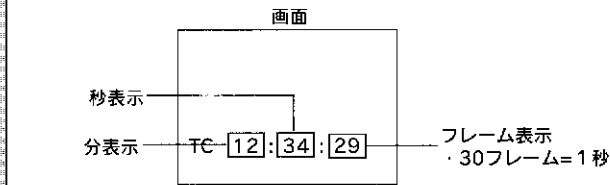


知ってると便利。

タイムコードと無記録部分

●タイムコードってなに？

撮影中、ムービーはテープの1コマ1コマにタイムコードと呼ばれる数字を記録していきます。タイムコードはテープの再生や編集の際に映像の位置を確かめる目安になります。自動編集(P97)などはタイムコードを利用して行います。



参考 早送り、巻戻し時のタイムコード表示は

テープの位置を確認するため、タイムコードが数秒間前後表示されます。

●テープの無記録部分ってなに？

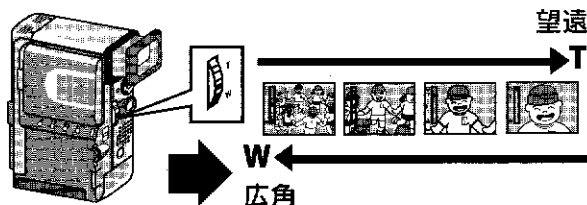
テープに何も記録されていない部分を無記録部分と言います。同じテープの中の何も記録されていない部分から撮影を開始すると、タイムコードは「00:00:00」(分・秒・フレーム)から新たにタイムコードを記録していきます。1本のテープの中に複数の同一タイムコードが記録されるため、自動編集などの誤動作の原因になります。

次のような場合は一度再生して、場面の終わりを確かめ、タイムコードが途切れないようにして撮影してください。

- ・撮影後に確認のため再生してみたテープで引き続き撮影するとき
- ・撮影の途中で電源やバッテリーが切れたとき
- ・使い切っていないテープをムービーから出し入れして撮影するとき
- ・途中でまで撮影したテープを使って撮影するとき
- ・テープの途中にある無記録部分に撮影したいとき
- ・撮影後にテープのテープカバーを開閉した後で撮影するとき

撮影中に被写体にズームすることができます。被写体が遠いところに
いるときや、画面に変化を付けたいときなどにご利用いただけます。

- 1** 撮影中に、ズームスイッチをT側、またはW側にスライドさせます。
T側にスライドさせると被写体が大きくなります。W側にスライド
させると被写体が小さくなります。



参考



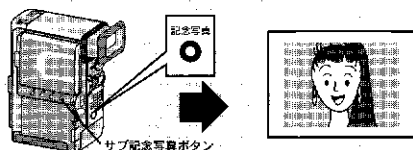
- ・フルオートモードでズームするときは
20倍までズームできます。
- ・マニュアルモードでズームするときは (P62)
10倍、20倍、100倍の中からズームの最大倍率を選択することができます。
- ・10倍以上のズーム (デジタルズーム) を使うときは
10倍まではレンズの機能で映像をズームしますが、10倍以上は映像をデジタル処理するため、多少映像品質が劣化します。
- ・ズームングのスピードを変えたいときは
ズームスイッチを軽くスライドさせると徐々にズームします。強くスライドさせると早いテンポでズームします。
- ・被写体を接写したいときは (マクロ撮影)
ズームスイッチをW側の端に合わせると、レンズから約5センチまで被写体に近づいて撮影できます。
- ・こんなときは10倍以上のズーム (デジタルズーム) 機能をご利用いた
だけません
10倍以上のズームと、映像をデジタル処理する機能 (ゴースト、オーバーラ
ップなど) を同時に使うことはできません。

ビデオの中に写真のような映像を挿入することができます。被写体の表情などをワンポイントで記録したいときなどに効果的です。

1

記念写真ボタンを押します。

白枠付きの静止画像が約6秒間記録されます。「カシャッ」という効果音も同時に記録されます。



参考



- ・撮影中に記念写真を撮影したときは
静止画像を約6秒間記録した後、静止画像から次の動画が徐々に浮かび上がっていくように記録されます。
- ・撮影一時停止状態で記念写真を撮影したときは
静止画像を約6秒間記録した後、撮影一時停止状態に戻ります。
- ・記念写真ボタンを押し続けたときは
静止画像を約0.7秒ごとに連写します。
- ・オートフラッシュが光るのは
撮影一時停止状態で記念写真を撮影したとき、被写体が暗いと（画面に⚡が表示されているとき）自動的に光ります。
 - ・次のようなときは光りません。
 - メニュー選択画面で「フラッシュ」が「切」(P62) のとき、「感度アップ」が「切」(P62) のとき、「演出効果」が「夜景」(P79) のとき、バッテリー残量が少ないとき。
 - ・連写のときは
最初の画像だけで光ります。
 - ・蛍光灯や電灯の光があるときは
記念写真の色合いが変わることがあります。
- ・記念写真ボタンが押しにくいときは
グリップベルトを取り付けているとき (P38) は、サブ記念写真ボタンを使ってください。

参照

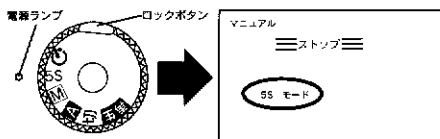


- ・ワクなしの記念写真を撮るには「5.1 ムービーのシステム設定を変える」(P110)

- ・撮影中に「カシャッ」という効果音が鳴らないようにするには「5.1」ムービーのシステム設定を変える。(P110)
- ・フラッシュの明るさを変えたいときは「[フラッシュの明るさを調節する(フラッシュ明るさ)]」(P83)

スタート/ストップボタンを押して5秒間だけ映像を撮影することができます。連続して5秒撮りすると、テレビドラマのようにテンポのいい映像を撮ることができます。旅先で風景や名所の記録を5秒間ずつ映像と音声で残したいときなどにも便利です。

- ① ファインダーを引き出します (P42)。
- ② 電源ダイヤルのロックボタンを押しながら、ダイヤルを【5S】(5秒撮りモード) に合わせます。
電源ランプが点灯し、画面に「5S モード」と表示されます。



- ③ スタート/ストップボタンを押します。
「ピッ」という確認音が鳴り、5秒撮り撮影を開始します。約5秒間撮影した後、画面に「ストップ」と表示され撮影一時停止状態になります。

参考



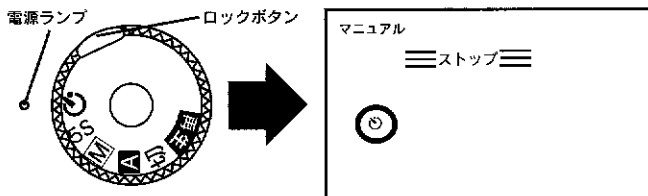
- ・5秒撮りの撮影モードはフルオートモードになります。マニュアルモードでの撮影はできません。ただし、白バランスは設定された状態のままです。
- ・5秒撮り撮影中にもう一度スタート/ストップボタンを押したときは撮影は停止しません。
- ・5秒撮り撮影モードで記念写真を撮りたいときは手順3で記念写真ボタン (P27) を押します。約6秒間、テープに静止画像が記録されます。ただし、「シーン」を「アニメ」(P110) にしているときはできません。

ムービーを固定してセルフタイマー撮影を行うと、撮影者も入ったビデオを撮ることができます。みんなが写ったビデオを残したいときなどにご利用ください。

① ファインダーを引き出します (P42)。

② 電源ダイヤルのロックボタンを押しながら、ダイヤルをセルフタイマーモードに合わせます。

電源ランプが点灯し、画面に $\odot$ (セルフタイマーモード) のマークが表示されます。



③ スタート/ストップボタンを押します。

撮影中ランプ (タリーランプ) が点滅し始めます。約15秒後に「ピッ」という確認音が鳴り、撮影中ランプが点灯し、撮影を開始します。

参考



- ・液晶画面を見ながらセルフタイマー撮影するときは液晶画面を180°回転させて、映り具合を見ながら撮影位置を決めることができます。
- ・撮影を停止するにはスタート/ストップボタンを押します。
- ・セルフタイマー撮影をやめたいときは電源ダイヤルを[A]、[M]、または「切」に合わせます。
- ・セルフタイマー撮影モードで記念写真を撮りたいときは手順3で記念写真ボタンを押します。約15秒後に記念写真撮影をします (P52)。

2.2 テープを再生する

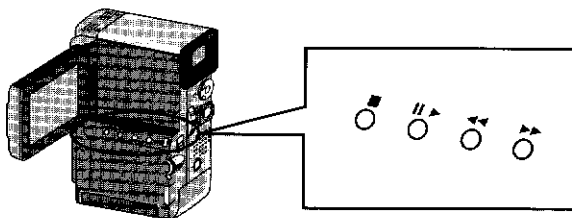
ここでは、撮影したテープの基本的な再生方法を説明します。

ムービーの液晶画面に再生画を表示させることができます。撮ったその場で映像を確認したいときなどにご利用ください。

- ① 液晶画面を開きます (P43)。
- ② 電源ダイヤルのロックボタンを押しながら、ダイヤルを再生に合わせます。



- ③ 巻戻しボタン (◀◀) を押してテープを巻戻します。



- ④ 再生ボタン (▶▶) を押します。
画面に映像が映り、スピーカーから音声が出ます。



・ファインダーで見るときは

ファインダーを引き出してください。このとき、液晶画面では見ることはできません。

・スピーカーや接続したヘッドホンの音量を調節したいときは

音量スイッチ (P27) を押ししてください。画面にスピーカー音量の表示が出ます。【+】側にスライドすると音量が大きくなります。【-】側スライドすると音量が小さくなります。ヘッドホンを接続しているときは、スピーカーからは音は出ません。

・テープの巻戻しや早送りが終わると

自動的に停止します。

・早送り、巻き戻し時のタイムコード表示は

ムービーがテープの位置を確認するため、タイムコード (P50) が数秒間前後することがあります。

・見たい場面を早く探したいときは

再生中に巻戻しボタン、または早送りボタンを押すと、高速でテープを再生します (約9倍速)。見たい場面で再生ボタンを押すと通常の再生に戻ります。巻戻しボタン、または早送りボタンを再生中に押し続けても高速再生でできます。ボタンから指を離せば通常の再生に戻ります。高速再生中の画像は多少モザイクのかかったような映像になります。また、音声は出ません。

・画面を一時停止させるには (静止画再生)

再生中に再生ボタンを押します。もう一度再生ボタンを押すと再生を再開します。静止画再生を約3分以上続けると自動的に停止します。

・スローで再生するときは

テープの静止画再生中に、リモコンのスローボタン (P30) を押します。スローボタンを押すと、約10～20秒間スローで再生した後、通常再生に戻ります。

・スロー再生を途中でやめたいときは、再生ボタン (P30) を押しってください。

・スロー再生中の映像は、デジタル処理を行うため、多少、モザイクのかかった映像になることがあります。

・リモコンのスローボタンを押してスロー再生を開始すると、最初に一時停止した位置から多少ずれて再生が始まる場合があります。

・スローボタンを押すと数秒間静止画になり、その後青い静止画 (ブルーバック) が数秒間表示されることがあります。故障ではありません。

・コピーガード付きテープを再生したときは

コピーガードが付いているテープは再生できません。画面はブルーバック (青い画面) になります。



・ムービーをテレビやビデオデッキにつないで再生したいときは「2.2.2. ムービーをテレビやビデオデッキにつないで再生する」 (P58)

・設定を変えてテープを再生するには「4.1 思いどおりに再生する」 (P86)

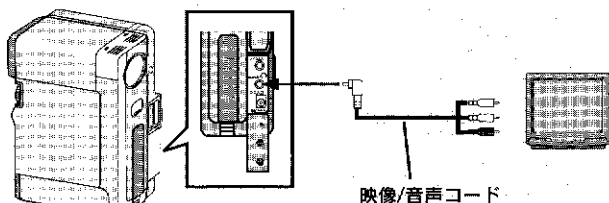
2.2.2 ムービーをテレビやビデオデッキにつないで再生する

みんな揃ってビデオを楽しみたいときなど、ムービーをご家庭のテレビにつないで再生することができます。ドッキングステーションに接続したムービーをテレビやビデオにつないで再生することもできます。

● ムービーをテレビに直接つないで再生する ●

① 映像/音声コードを使ってムービーとテレビを接続します。

ムービーの端子カバーは手前に引っぱって開きます。



② ムービーの電源ダイヤルを国産にし、テレビの電源を入れてテレビの入力モードをムービーを接続した端子に切り替えます。

例えば「ビデオ1、ビデオ2、ムービー」などに切り替えます。

③ テープを再生します。

再生方法は、「2.2.1 ムービーだけで再生する」(P55)と同じです。別売のリモコン (P30) を使って操作することもできます。

注意



● 電源は必ず接続後に入れてください

電源を入れたまま接続を行うと、機器の故障の原因になります。

参考



● テレビの入力モードについて知りたいときは

ご使用になるテレビによって、入力モードの設定方法は異なります。詳しくはテレビの取扱説明書を参照してください。

・ムービーの電源を入れるときは

急に大きな音が出たりしないよう、テレビの音量は最小にしておいてください。

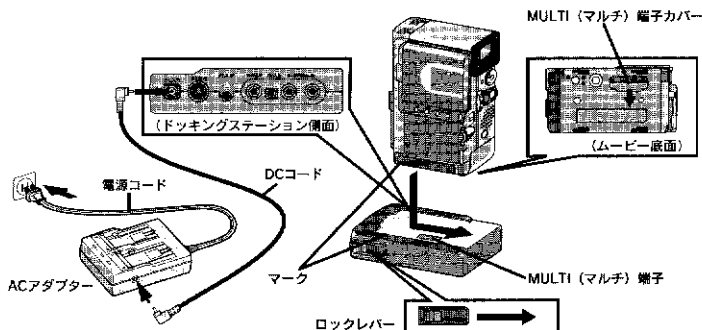
・再生時にテレビに表示されるムービーのメッセージ表示を消したいときは

☞「画面表示入/切ボタン」(P27)

ドッキングステーションを使ってテレビまたはビデオデッキにつないで再生する

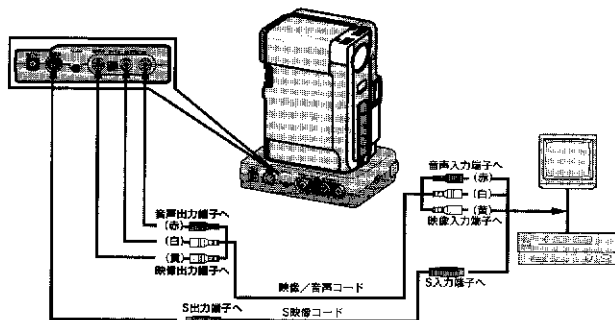
別売のドッキングステーションにムービーを取り付けます。

ムービーの底面のMULTI(マルチ)端子カバーを開け(P28)、ムービーとドッキングステーションのマークを合わせてスライドさせます。ロックレバーをスライドさせてムービーを固定します(ロック解除ボタンを押し、ロックレバーとムービーを取り付けと反対方向にスライドさせると取り外すことができます)。続けてドッキングステーションとACアダプター、ACアダプターの電源コードとコンセントを接続します。



② ドッキングステーションを、テレビ、またはビデオデッキに接続します。

映像/音声コードを使ってドッキングステーションとテレビ、またはビデオデッキを接続します。テレビ、またはビデオデッキにS入力端子があるときは、画質の劣化を防ぐため、S映像コードを使ってドッキングステーションのS2出力端子とテレビ、またはビデオデッキのS入力端子を接続します。



③ ムービーの電源ダイヤルを再生にし、ムービーとテレビ、またはビデオデッキの電源を入れます。

④ テレビのチャンネルやビデオデッキの入力モードを設定します。

- ・ドッキングステーションとムービーをテレビに接続したときテレビの入力モードをムービーを接続した端子に切り替えます(例えば「ビデオ1、ビデオ2、ムービー」など)。
- ・ドッキングステーションとムービーをビデオデッキに接続したときテレビをビデオを見るチャンネルに合わせ、ビデオデッキの入力モードを外部入力に設定します。

⑤ テープを再生します。

再生方法は、「2.2.1 ムービーだけで再生する」(P55)と同じです。ドッキングステーション、または別売のリモコン(P30)を使って操作することもできます。

注意



- ・電源は必ず接続後に入れてください
電源を入れたまま接続を行うと、機器の故障の原因になります。

参考



- ・テレビの入力モードについて知りたいときは
ご使用になるテレビによって入力モードの設定方法は異なります。詳しくはテレビの取扱説明書を参照してください。
- ・テレビからノイズ音が出るときは
テレビから「ジー」「ウーレン」というノイズ音が出るときは、テレビからムービーのマイクを離すかテレビの音量を下げてください。
- ・テレビ、またはビデオデッキの音声入力端子が1つしかないときは
市販の変換プラグを接続してください。
- ・ムービーの電源を入れるときは
急に大きな音が出たりしないよう、テレビの音量は最小にしておいてください。

参照



- ・再生時にテレビに表示されるムービーのメッセージ表示を消したいときは
「4.1.2 再生画面に日時を表示する」(P88)、「4.1.2 再生画面にタイムコードを表示する」(P89)
- ・再生した映像をズームしたいときは「4.1.4 再生画面をズームする、画面を移動する」(P90)
- ・再生した映像に変化を付けたいときは「4.1.5 再生画面に演出効果を加える」(P91)
- ・テープをムービーだけで再生したいときは「2.2.1 ムービーだけで再生する」(P55)

よりプロっぽく撮る

ここでは、ムービーの機能を最大限に使ってより効果的にビデオを撮影する方法を説明します。ビデオの撮影方法の設定は、ムービーのメニューを使って行います。

電源ダイヤルで[M]、[5S]、☺(セルフタイマー)を選択しているときにメニューボタン (P27) を押して設定する機能は、「3.1 撮影機能を設定する」(P62)で説明します。

電源ダイヤルで[M]を選択しているときにメニューボタンを押して設定する機能は、「3.2 撮影方法を工夫する」(P66)で説明します。

参照



- フルオートモードでビデオを撮影するには☺「第2章 とにかく撮って、とにかく見る」(P45)
- 設定を変えてビデオを再生するには☺「4.1 思いどおりに再生する」(P86)
- ビデオを編集するには☺「4.2 かっこよく編集する」(P92)
- ムービーのその他の設定を変えるには☺「第5章 ムービーの設定を変える」(P109)

3.1 撮影機能を設定する

ここでは、電源ダイヤルで、**[M]**、**[5S]**、**[S]**（セルフタイマー）を選択しているときに、メニューボタン（P27）を押してより効果的な撮影を行う方法を説明します。

メニュー名	概要	設定内容（＊）
録画モード	撮影する際のテープの送り速度を変えることができます。「LP」は「SP」に比べてテープの速度が遅くなるため、「SP」の約1.5倍の時間撮影できます。「SP」で撮影すると、あとで「アフレコ編集」「インサート編集」をすることができます。	SP/LP
ワイド効果	「ワイド」を選択すると、ワイドテレビにピッタリの横長の画面を撮ることができます。「シネマ」を選択すると、映画のように画面の上下に黒い帯が入った映像を撮ることができます。	切/ワイド/シネマ
ズーム	ズームできる最大倍率を、10倍、20倍、100倍から選択することができます。	10倍/ 20倍 /100倍
手ぶれ補正	撮影中に生じる小さな揺れを自動的に補正することができます。設定が「入」になっているときは、画面に「手ぶれ」と表示されます。	入 /切
感度アップ	ムービーは暗いところでも自動的に画面が明るくなるように撮影します。この機能を「切」に設定することで、見ている明るさそのままをビデオに撮ることができます。	オート /切/AGC
フラッシュ	暗いところで記念写真撮影を行うと、ムービーは自動的にフラッシュを発光します。この機能を「切」に設定することで、フラッシュが自動発光しないように設定することができます。	オート /切

＊最初に設定されている内容は  で示してあります。

メニュー名	概要	参照ページ
日時設定	「5.2 日時を設定する」を参照してください。	P114
システム設定	「5.1 ムービーのシステム設定を変える」を参照してください。	P110

※



●録画モード

- ・本機の「LP」モードで撮影したテープは

本機で再生することをおすすめします。他社のデジタルビデオではうまく再生できない場合があります。

●ワイド効果

- ・普通のテレビ（画面比率4:3）やファインダー、液晶画面で見るときは
ワイド映像は、撮影時、再生時ともに縦長の映像が映ります。シネマ映像は、撮影時、再生時ともに上下に黒い帯が入った映像が映ります。
- ・ワイドテレビで再生するときは
ワイドで撮った映像には、ワイド用の識別信号が記録されています。別売のドッキングステーション（P29）のS2端子をS映像コードでワイドテレビに接続してください。S2端子に接続すれば、ワイド、シネマをテレビが自動判別します。S1端子に接続すると、シネマを自動判別します。テレビ側にS2またはS1端子がないときは、S端子に接続してください。自動判別はできません（詳細はお使いのワイドテレビの取扱説明書を参照してください）。
- ・ビデオデッキでダビングしたワイド映像を再生するときは
ワイド映像になるようにテレビ側でモードを切り替えてください（詳細はお使いのワイドテレビの取扱説明書を参照してください）。
- ・ワイド映像とシネマ映像を混在させて撮ったときは
早送り再生中、巻戻し再生中は、ワイド映像とシネマ映像を判別できません。

●ズーム

- ・10倍以上のズーム（デジタルズーム）を使うときは
10倍まではレンズの機能で映像をズームしますが、10倍以上は映像をデジタル処理するため、多少映像品質が劣化します。（P62）

●手ぶれ補正

・フルオートモードの手ぶれ補正は

「手ぶれ補正」を「切」に設定していても、自動的に「入」になります。

・三脚などでムービーを固定して撮影するときは

「手ぶれ補正」を「切」にしてください。「入」のままだと被写体の動きに合わせて必要のない補正を行い、不自然な映像になることがあります。

・こんなときは手ぶれを補正できません

- ・手ぶれが大きいときやコントラスト（明暗差）のほとんどない被写体を撮るときは、補正できないことがあります。
- ・映像をデジタル処理する機能と同時に使えないことがあります。
- ・手ぶれ補正が働かないときは、液晶画面の「手ぶれ」表示が点滅します。

●感度アップ

・感度アップを「オート」で撮影した画面は

- ・ムービーは自動的にシャッタースピードを調節して、実際よりも明るい映像を記録します（シャッター速度 1/30 ～ 1/200 秒に自動可変）。ただし、被写体の動きは多少不自然になります。
- ・「AGC」で撮影した画面は、デジタル映像を処理して実際よりも明るい映像を記録します。ただし、映像がザラザラした感じになります。

●フラッシュ

・フラッシュが光るのは

画面に  が点灯しているときです（P52）。

・フルオートモードでのフラッシュは

「フラッシュ」を「切」に設定していても、自動的に「オート」になります。

・フラッシュが「オート」の状態で撮影した画面は

暗いところでの記念写真撮影では、ムービーは自動的にフラッシュをたいて実際よりも明るい映像を記録しますが、フラッシュの光で映像が多少白っぽくなる場合があります。これをおさえるため、フラッシュ発光時に、ムービーは自動的に画面を暗くして撮影します。フラッシュの光が届かない距離（約 2m 以上）の被写体を撮影する時は、暗くならないように「フラッシュ」を「切」にしてください。

・フラッシュの充電中は

画面の  が点滅します。このとき、画面にノイズが出ても故障ではありません。また、記録もされません。充電に 10 秒ほどかかる場合があります。

例として、撮影機能共通の設定方法を説明します。

- ①** 電源ダイヤルで[M]、[5S]、☺(セルフタイマー)を選択しているときに、メニューボタン(P27)を押します。

メニュー選択画面が表示されます。

- ②** 選択ダイヤルを上下に動かして設定したい項目にカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。

例として「録画モード」を選択します。

- ③** 選択ダイヤルを上下に動かして、選択したい項目を表示させます。

例として「LP」を表示させます。



- ④** 選択ダイヤルを押します。
「LP」の点滅が消え、選択が確定します。カーソルは自動的に「メニュー終了」に移動します。

- ⑤** 選択ダイヤルを押します。
メニューを終了し、通常の撮影画面に戻ります。

3.2 撮影方法を工夫する

ここでは、電源ダイヤルで[M]を選択しているときに選択ダイヤル(P27)を押して、より効果的な撮影を行う方法を説明します。

オートフォーカスでは、約5センチから無限遠まで自動的にピントが合います。しかし、ピントが合いにくいときや被写体が画面中央にないときは(フルオートモードでは画面中央にピントが合います)、手動でピントを合わせることができます。「フォーカス」はお買い上げになった状態では「オート」に設定されています。

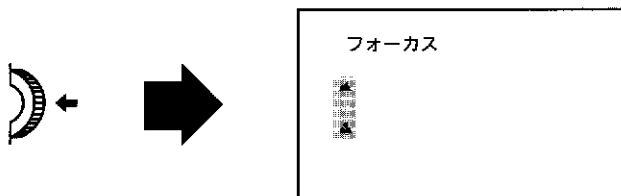
- ① 電源ダイヤル[M]で、選択ダイヤル(P27)を押します。
メニュー選択画面が表示されます。
- ② 選択ダイヤルを上下に動かして「フォーカス」にカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。
「フォーカス」の「オート」が点滅します。
- ③ 選択ダイヤルを上下に動かして、選択したい項目を表示させます。
ここでは「マニュアル」を表示させます。



4

選択ダイヤルを押します。

メニュー画面が消え、手動でピントを合わせるための画面が表示されます。



5

選択ダイヤルを上下に動かしてピントを合わせます。

選択ダイヤルを上には動かすと液晶画面の▲が点滅し、遠い方にピントが合います。ピントが最遠点になると▲が点滅します。下には動かすと▼が点滅し、近い方にピントが合います。最至近点になると●が点滅します。

6

選択ダイヤルを押します。

設定したフォーカスが固定し、「フォーカス」の表示は「マニュアル」に変わります。固定したピントを合わせ直したいときは、手順1からくり返します。

参考



・ピントをオートフォーカスにするには

手順3で「オート」を選択します。電源ダイヤルを[A]に合わせてもオートフォーカスに切り替えることができます。再び電源ダイヤルを[M]に戻してもオートフォーカスのままです。

・こんなときは手動でピントを合わせてください

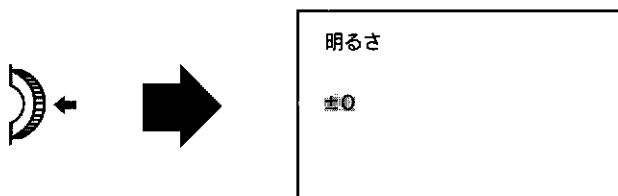
- ・平らな壁や青空など、コントラスト（明暗差）のほとんどない被写体を撮るとき
- ・金網などの障害物が被写体との間にあるとき
- ・細かい模様や同じ模様が規則正しく並んでいる被写体を撮るとき
- ・蛍光灯などのちらつきのある光源の下で撮影するとき

フルオートモードでは、ムービーは映像の明るさを自動調節して撮影します。しかし背景が明るすぎて被写体が暗くなるときや背景に比べて被写体が明るすぎるときなどは、手動で明るさを調節すると便利です。「明るさ補正」はお買い上げになった状態では「オート」に設定されています。

- ① 電源ダイヤル $\square$ で、選択ダイヤル (P27) を押します。
メニュー選択画面が表示されます。
- ② 選択ダイヤルを上下に動かして「明るさ補正」にカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。
「明るさ補正」の「オート」が点滅します。
- ③ 選択ダイヤルを上下に動かして、選択したい項目を表示させます。
ここでは「マニュアル」を表示させます。



- ④ 選択ダイヤルを押します。
メニュー選択画面が消え、手動で明るさを調節するための画面が表示されます。



5

選択ダイヤルを上下に動かして明るさを調節します。

選択ダイヤルを上動かすと明るさ調節表示の数字が増え、明るく撮影できます。下動かすと明るさ調節表示の数字が減り、暗めに撮影できます。

6

選択ダイヤルを押します。

明るさの補正が固定され「明るさ」の表示は「マニュアル」に変わります。固定した明るさを合わせ直したいときは、手順1からくり返します。

参考



・明るさの調節を自動調節に戻すには

手順3で「オート」を選択します。電源ダイヤルをAに合わせても、自動調節に切り替えることができます。再び電源ダイヤルをMに戻してもオートフォーカスのままです。

・こんなときは手動で明るさを調節してください

逆光のときや、スキー場や海辺など光の反射が強い場所（背景が明るすぎて被写体が暗くなります）。

スポットライトの中にいる人物を撮るときなど（背景に比べて被写体が明るすぎます）。

・一定の明るさで撮影するには

手順5のあと、選択ダイヤルを2秒以上押します。明るさ調節表示の数字の横にLが表示されます。もう一度選択ダイヤルを押すと明るさが固定され、「明るさ」の表示は「マニュアル」に変わります。動きのある被写体や、ズーム操作で画面上の被写体を一定にすることができます。

参照



・液晶画面の明るさを調節したいときはP3「選択ダイヤル」(P43)

フルオートモードでは、ムービーは撮影する色のバランスを自動で調節します。しかし、特定の条件で撮影を行うときなどはマニュアルモードで色のバランスを調節すると便利です。手動で色のバランスを調節すると、設定した色のバランスで撮影することができます。「白バランス」はお買い上げになった状態では「オート」に設定されています。



① **[M]** で撮影中に、選択ダイヤル (P27) を押します。

メニュー選択画面が表示されます。



② 選択ダイヤルを上下に動かして「白バランス」にカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。

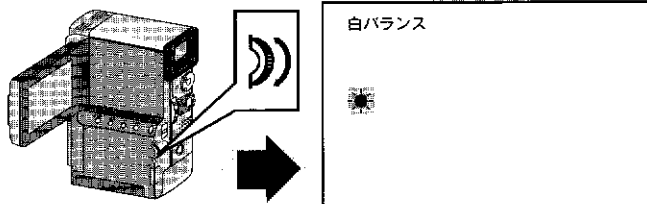
メニュー選択画面が消え、画面上に「オート」が表示されます。



③ 選択ダイヤルを上下に動かして、選択したい項目を表示させます。次の5つのメニューから選択できます。

- ・ オート 自動的に色のバランスを調節します。フルオートモードでは「オート」に設定されています。
- ・  ワンタッチ あらかじめ被写体に合わせて設定しておいた色のバランスで撮影したいときに選択します。
- ・  晴れた日に屋外で撮影するときに選択します。
- ・  曇りの日や日陰で撮影するときに選択します。
- ・  ビデオライトなどで撮影するときに選択します。

ここでは「」を表示させます。



4 選択ダイヤルを押します。

色バランスが固定され、画面上の「白バランス」が「マニュアル」にかわります。

参考

色のバランス調節を自動調節に戻すには

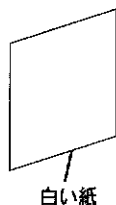
手順3でカーソルを「オート」に合わせます。または、電源ダイヤルを **A** に合わせても自動調節に切り替えることができます。

「ワンタッチ」で使用する色のバランスを設定する

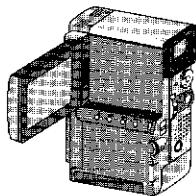
被写体に合った色のバランスを「ワンタッチ」に設定しておく方法を説明します。

1 「3.2.3 色のバランスを調節する」(P70)の手順3で、「ワンタッチ」を選択します。

2 被写体の前に白い紙を置き、画面いっぱいに白い紙を映します。



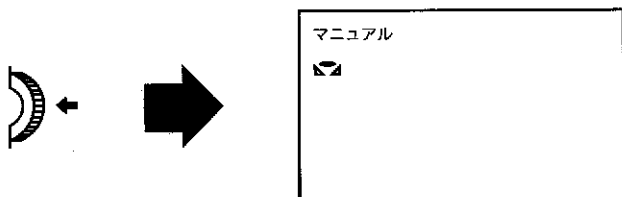
白い紙



3 選択ダイヤルを、「ワンタッチ」が点滅するまで押し続けます。「ワンタッチ」の点滅が止まったところの色のバランスが、ワンタッチに記憶されます。

4 選択ダイヤルを押します。

画面上の「ワンタッチ」が「」だけになり「白バランス」が「マニュアル」になります。



参考



・設定した色のバランスは

「ワンタッチ」に別の色のバランスを設定するまで記憶されています。

・室内で撮影するときは

外光、蛍光灯、ロウソクの光など、いろいろな光源が被写体にあたります。光によって色温度 (P125) が異なるため、自然な色合いで撮影したいときは色のバランスを調節してください。

・色紙を使って色のバランスを調節するときは

手順2で色紙を置いて色のバランスを調節すると、白い紙を置いて調節したときとはちょっと変わった色合いの撮影がお楽しみいただけます。

- | | |
|---------------|-------------------|
| 例) 赤い紙で調節した場合 | : 青緑がかった色で撮影されます。 |
| 青い紙で調節した場合 | : オレンジ色で撮影されます。 |
| 黄色い紙で調節した場合 | : 青紫がかった色で撮影されます。 |

ここでは場面と場面の間に変化を付けてビデオをつなぐ方法を説明します。場面切替は次の18種類のメニューを利用することができます。

● 場面切替のメニュー ●

分類	メニュー	効果
白・黒画面で切替	 フェーダー：白	白い画面でフェードイン、フェードアウトします。
	 フェーダー：黒	黒い画面でフェードイン、フェードアウトします。
	 フェーダー：白黒	白黒画面からカラー画面にフェードインし、カラー画面から白黒画面にフェードアウトします。
	 フェーダー：モザイク	モザイク画面で、フェードイン、フェードアウトします。
	 ワイプ：コーナー	黒い画面の右上から左下へ映像が徐々にワイプインし、左下から右上へワイプアウトします。
	 ワイプ：ウィンドウ	黒い画面の中心から映像が徐々にワイプインし、画面の中心へワイプアウトします。
	 ワイプ：スライド	黒い画面の右から左へ映像が徐々にワイプインし、左から右へワイプアウトします。
	 ワイプ：ドア	黒い画面から映像が左右にドアを開けていくように徐々にワイプインし、閉めていくようにワイプアウトします。
	 ワイプ：スクロール	黒い画面から映像が下から上へ徐々にワイプインし、上から下へワイプアウトします。
	 ワイプ：シャッター	黒い画面の中央から映像が上下に徐々にワイプインし、上下から中央にワイプアウトします。

(場面切替のメニュー 続き)

分類	メニュー	効果
最後の映像 (静止画) で切替	 P オーバーラップ	最後に撮った映像から次の撮影の映像が徐々に浮かび上がっていくように場面を切り替えます(オーバーラップ)。
	 P ワイプ: コーナー	最後に撮った映像の右上から左下へ徐々にワイプインします。
	 P ワイプ: ウィンドウ	次の撮影の映像が、最後に撮った映像の中心から徐々にワイプインします。
	 P ワイプ: スライド	次の撮影の映像が、最後に撮った映像の右から左に徐々にワイプインします。
	 P ワイプ: ドア	次の撮影の映像が、最後に撮った映像から左右にドアを開けていくように徐々にワイプインします。
	 P ワイプ: スクロール	次の撮影の映像が、最後に撮った映像の下から上に徐々にワイプインします。
	 P ワイプ: シャッター	次の撮影の映像が、最後に撮った映像の中央から上下に徐々にワイプインします。
ランダムに切替	 R ランダム	「白・黒画面で切替」メニューの中から使用するメニューをムービーがランダムに選び、場面を切り替えていきます。
-	切	「場面切替」を使用しないときに選択します。



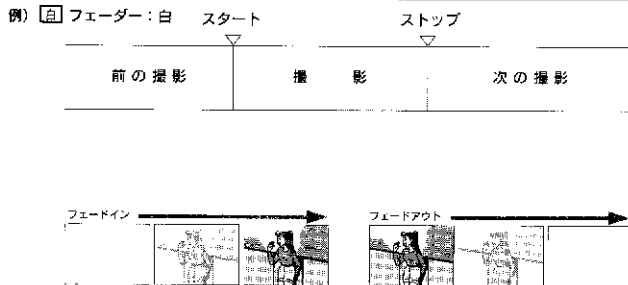
「場面切替」で映像をつないだときの映像効果は？

実際に「画面切替」をご利用になる前に、各メニューではどのように映像がつながるのかをイラストを使って説明します。

●「白・黒画面で切替」メニューを使ったときの効果 (P73)

1) フェーダー効果

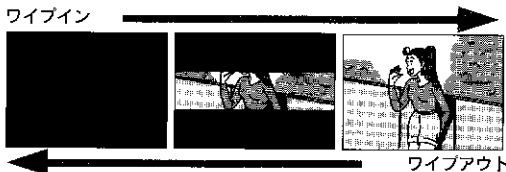
ビデオの撮り始めと撮り終わりをフェードイン、フェードアウトでつなぎます。「フェーダー：白」「フェーダー：黒」「フェーダー：白黒」「フェーダー：モザイク」メニューがご利用いただけます。



2) ワイプ効果

ビデオの撮り始めと撮り終わりをワイプイン、ワイプアウトでつなぎます。「ワイプ：コーナー」「ワイプ：ウィンドウ」「ワイプ：スライド」「ワイプ：ドア」「ワイプ：スクロール」「ワイプ：シャッター」メニューがご利用いただけます。

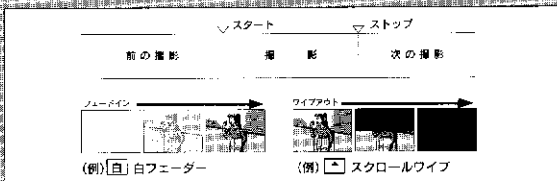
例) ワイプ：シャッター





●「ランダムに切替」メニューを使ったときの効果 (P74)

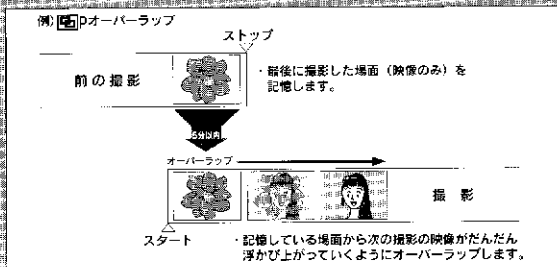
「白・黒画面で切替」メニューの中から使用するメニューをムービーがランダムに選び、画面を切り替えていきます。フェードイン・フェードアウト(またはワイプイン、ワイプアウト)で別の効果が挿入されることもあります。



●「最後の映像(静止画)で切替」メニューを使ったときの効果(P74)

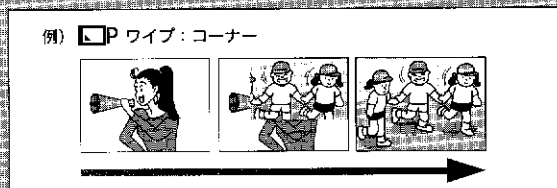
1) オーバーラップ

ビデオの撮り始めをオーバーラップでつなぎます。



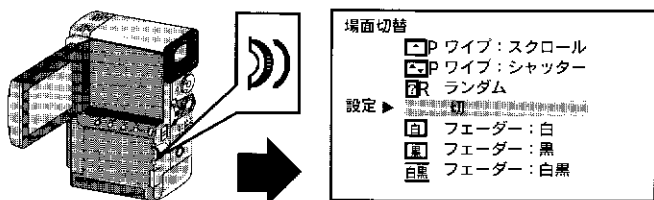
2) アイコンにPの付いているワイプ効果

ビデオの撮り始めをワイプインでつなぎます。「ワイプ: コーナー」「ワイプ: ウィンドウ」「ワイプ: スライド」「ワイプ: ドア」「ワイプ: スクロール」「ワイプ: シャッター」がご利用いただけます。

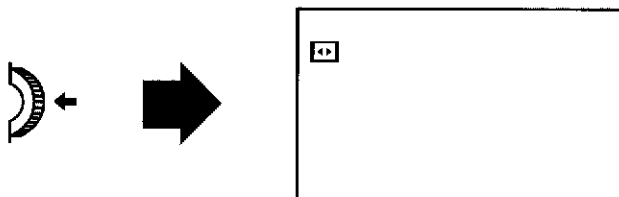


場面切替を設定する

- 1 電源ダイヤル $\blacksquare$ で、選択ダイヤル (P27) を押します。
メニュー選択画面が表示されます。
- 2 選択ダイヤルを上下に動かして「場面切替」にカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。
「場面切替設定」画面が表示されます。



- 3 選択ダイヤルを上下に動かして、メニューを選択します。
選択ダイヤルを上下に動かすとメニューが順番に表示されます。
お好みのフェーダー、またはワイプを「設定▶」の横にしてください。例として「ワイプ: ドア」を選択します。
- 4 選択ダイヤルを押します。
「場面切替設定」画面が消え、選択したメニューが設定されます。画面の左上に選択したメニューのアイコンが表示されます。



5 スタート/ストップボタンを押します。

スタート/ストップボタンを押すと選択したメニューでビデオを撮り始めます。もう一度スタート/ストップボタンを押すと選択したメニューでビデオを撮り終えます。画面に「ストップ」と表示されます。

参考



・電源を切ってしまったときは

「最後の映像で切替」（アイコンにPの付いている切替）を設定したとき、電源が切れると、ムービーに記憶されている最後の映像が消えてしまいます。このとき、画面切替設定アイコンが点滅しますので、もう一度通常の撮影をしてから場面切替を行ってください。撮影一時停止を5分以上続けても電源が切れますので、注意してください。

・場面切替設定をやめたいときは

「場面切替を設定する」の手順3で「切」を選択します。

・場面切替設定と演出効果設定（P73、79）を一緒に使うと

さらに効果的なビデオ撮影をお楽しみいただけます。ただし、演出効果設定と一緒に使えないメニューがあります。場面切替設定アイコンが点滅して、使えない機能であることをお知らせします。

ここでは、映像そのものに変化をつけてビデオを撮る方法を説明します。被写体を何重にも重ねて撮影したり、暗い場所の被写体を明るく撮ることなどができます。演出効果は全部で12種類のメニューをご利用いただけます。

演出効果のメニュー

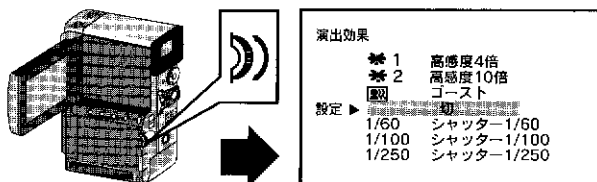
メニュー	効果
1/60 シャッター-1/60	シャッタースピードを1/60に固定します。テレビ画面などを撮影するときに出る黒い帯は細くなります。
1/100 シャッター-1/100	シャッタースピードを1/100に固定します。蛍光灯や水銀灯の光で撮影するときに出るちらつきは少なくなります。
1/250 シャッター-1/250	シャッタースピードを1/250に固定します。動きの早いものを1コマ1コマ鮮明に撮ることができます。シャッタースピードが早くなればなるほど画面が暗くなるので、できるだけ明るい場所で撮影してください。
1/500 シャッター-1/500	シャッタースピードを1/500に固定します。動きの早いものを1コマ1コマ鮮明に撮ることができます。シャッタースピードが早くなればなるほど画面が暗くなるので、できるだけ明るい場所で撮影してください。
☾ 夜景	夜景などを撮るとき、映像がガラガラせず、自然な感じで記録することができます。「白バランス」(P70)は☀になりますが、お好みの設定に変えることができます。 また、「夜景」を選択すると手動フォーカス表示が出ます。被写体にフォーカスが合わないときは、手動で合わせるか、またはオートフォーカスで合わせてください。

(演出効果のメニュー 続き)

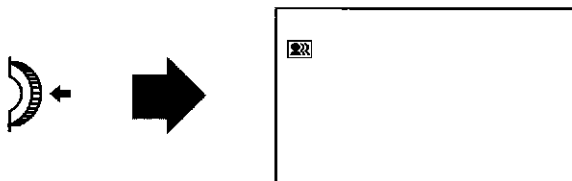
メニュー	効果
 セピア	古い写真のようなセピア色で映像を記録します。「ワイド効果」の「ワイド」や「シネマ」(P62)と合わせて使うと、古い白黒映画のような雰囲気をお楽しみいただけます。
B/W ブラック/ホワイト	映像を白黒で記録します。「ワイド効果」の「ワイド」や「シネマ」(P62)と合わせて使うと、白黒映画のような雰囲気をお楽しみいただけます。
 映画効果	早いコマ落とし効果を付けて映像を記録します。
 ストロボ	コマ落としの効果で、連続写真のように記録します。
 1 高感度4倍	暗い場所の映りにくい被写体を、通常よりも約4倍明るく浮かび上がらせて撮影することができます(シャッター速度:1/15秒)。
 2 高感度10倍	暗い場所の映りにくい被写体を、通常よりも約10倍明るく浮かび上がらせて撮影することができます(シャッター速度:1/6秒)。
 ゴースト	被写体が何重にもなって撮影されます。幻想的な雰囲気を出したいときなどに効果的です。
切	「演出効果」を使用しないときに選択します。

演出効果を設定する

- ① 電源ダイヤル $\blacksquare$ で、選択ダイヤル (P27) を押します。
メニュー選択画面が表示されます。
- ② 選択ダイヤルを上下に動かして「演出効果」にカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。
「演出効果設定」画面が表示されます。



- ③ 選択ダイヤルを上下に動かして、メニューを選択します。
選択ダイヤルを上下に動かすとメニューが順番に表示されます。
お好みの効果を「設定▶」の横にしてください。
例として「ゴースト」を選択します。
- ④ 選択ダイヤルを押します。
「演出効果設定」画面が消え、選択したメニューが設定されます。画面の左上に選択したメニューのアイコンが表示されます。



- ⑤ スタート/ストップボタンを押します。
スタート/ストップボタンを押すと選択したメニューでビデオを撮り始めます。もう一度スタート/ストップボタンを押すとビデオを撮り終わります。画面に「ストップ」と表示されます。



・演出効果設定をやめたいときは

手順3で「初」を選択します。

・シャッターメニューを使うときは

シャッタースピードが速くなればなるほど画面が暗くなります(1/60、1/100、1/250、1/500の順で暗くなります)。できるだけ明るい場所で撮影してください。

・高感度メニューを使うときは

暗いところでのみお使いください。撮影した映像はコマ落としのようになります。手動フォーカス表示が出て点滅したときは、ピントを手動で合わせ、三脚などで固定してください。

・ゴーストを設定しているときは

デジタルズーム(P51)はご利用いただけません。

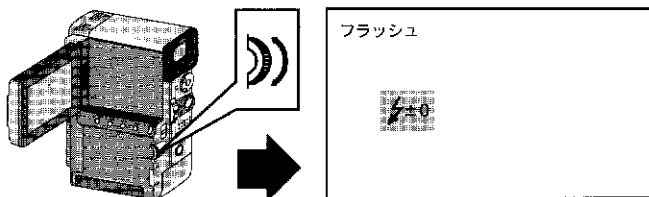
・演出効果設定と場面切替設定(P73、79)を一緒に使うと

さらに効果的なビデオ撮影をお楽しみいただけます。ただし、場面切替設定と一緒に使えないメニューがあります。演出効果設定アイコンが点滅して、使えない機能であることをお知らせします。

暗いところで記念写真撮影 (P52) を行うと、ムービーは被写体に合わせて自動的にフラッシュの明るさを調整して発光します。記念写真撮影したものが明るすぎたときや、暗すぎたときに手動で調節してみてください。

- 1 電源ダイヤル **[M]** で、選択ダイヤル (P27) を押します。
メニュー選択画面が表示されます。

- 2 選択ダイヤルを上下に動かして「フラッシュ明るさ」にカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。
メニュー選択画面が消え、手動でフラッシュの明るさを調節するための画面が表示されます



- 3 選択ダイヤルを上下に動かしてフラッシュの明るさを調節します。
選択ダイヤルを上動かすと明るさ調節表示の数字が増え、フラッシュを明るくできます。下に動かすと明るさ調節表示の数字が減り、フラッシュを暗めにできます。
- 4 選択ダイヤルを押します。
設定したフラッシュの明るさの補正が固定されます。画面上の「フラッシュ」が「マニュアル」になります。



- ・バッテリーの充電が十分でないときは
「フラッシュ明るさ」設定画面が表示されないことがあります。
- ・被写体や撮影場所が変わったときは
手順3で数値を「±0」にして、一度記念写真撮影をしてフラッシュの明るさを確認してください。
- ・メニュー選択画面で「フラッシュ」(P63) が「切」になっているときは
フラッシュの明るさ調節はできません。
- ・「感度アップ」(P62) が「切」のとき、または演出効果で「夜景」(P79) を選んでいるときは
フラッシュは光りません。



- ・オートフラッシュ連動記念写真撮影を撮るには  2.1.3 記念写真を撮る」(P52)

思いどおりに再生、 かっこよく編集

ここでは、ムービーのメニューを使ってビデオを再生する方法と、撮ったビデオのダビングや編集方法をまとめて説明します。

参照



- ・フルオートモードでビデオを撮影するには  「第2章 とにかく撮って、とにかく見る」(P45)
- ・より効果的にビデオを撮影するには  「第3章 よりプロっぽく撮る」(P61)
- ・ムービーのその他の設定を変えるには  「第5章 ムービーの設定を変える」(P109)

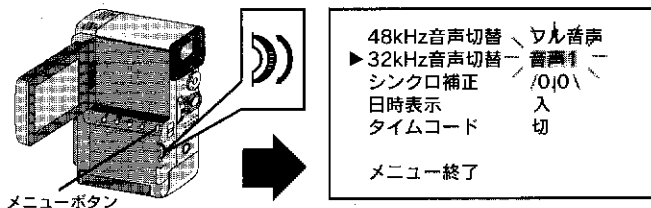
4.1 思いどおりに再生する

ここでは、ビデオの再生中にメニューボタンを（P27）押して、音声の再生方法やメッセージの表示方法などを切り替える方法を説明します。

DV方式には48kHzと32kHzの2つの音声モードがあり、撮影時に指定することができます。ここでは、その音声を再生する方法を説明します。32kHzで撮影されたテープは、アフレコ編集（P93）した後の音声を、撮影時の音声のみ、アフレコ音声のみ、撮影時の音声とアフレコ音声同時の3通りから選択して再生することができます。48kHzで撮影されたテープは、録音したままの音声を高音質のステレオ音声で再生します。「48kHz 音声切替」と「32kHz 音声切替」メニューは、お買い上げになった状態ではそれぞれ「フル音声」と「音声1」に設定されています。

- ① 電源ダイヤル^{国生}でメニューボタン（P27）を押します。
メニュー選択画面が表示されます。

- ② 選択ダイヤルを上下に動かして「48kHz」、または「32kHz」にカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。
ここでは「32kHz 音声切替」を選択します。





選択ダイヤルを上下に動かして、選択したい項目を表示させます。次の3つの項目から選択できます。ここでは「音声2」を表示させます。

メニュー名	項目	出力される音声
48kHz	フル音声	撮影時の音声がステレオ音声で再生されます。
	音声1	左（L）の音声再生されます。
	音声2	右（R）の音声再生されます。
32kHz	フル音声	撮影時の音声とアフレコ音声と同時にステレオ音声で再生されます。
	音声1	撮影時の音声再生されます。
	音声2	アフレコ音声再生されます。



選択ダイヤルを押します。

「音声2」の点滅が消え、選択が確定します。カーソルは自動的に「メニュー終了」に移動します。



選択ダイヤルを押します。

メニューを終了し、通常の画面に戻ります。画面に選択した音声の表示がでます。

参考



・リモコンで再生時の音声を切り替えるときは

メニュー選択画面を表示しなくても、「音声切替ボタン」(P30)を押すたびに「フル音声→音声1→音声2→フル音声→…」の順に音声切り替わります。

・再生中の音声モードを確認するには (P33)

ムービーはビデオの音声モードを自動判別して再生します。ビデオを再生すると、画面の左上端に再生中の音声モードが表示されます（早送り/巻戻し再生中は自動判別できません）。

参照



・録音する音声モードを設定するには P35「5.1.1 システム設定メニュー」(P110)

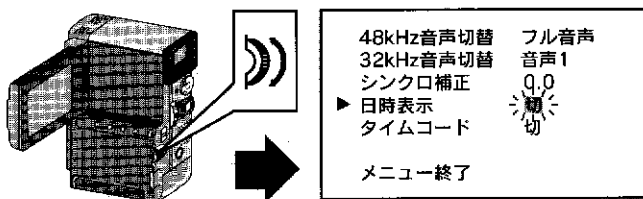
・アフレコ編集するには P35「4.2.2 撮影したビデオにナレーションを付ける」(P93)

ビデオを撮影すると、撮影した日時が自動的にビデオに記録されます。ここでは、ビデオを再生するとき撮影した日時を表示させる方法を説明します。「日時表示」メニューはお買い上げになった状態では「入」に設定されています。表示を出すときは「入」、消すときは「切」にします。

- ① 電源ダイヤル再生でメニューボタン (P27) を押します。
メニュー選択画面が表示されます。

- ② 選択ダイヤルを上下に動かして「日時表示」にカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。
「日時表示」の「入」が点滅します。

- ③ 選択ダイヤルを上下に動かして、選択したい項目を表示させます。
ここでは「切」を表示させます。



- ④ 選択ダイヤルを押します。
「切」の点滅が消え、選択が確定します。カーソルは自動的に「メニュー終了」に移動します。
- ⑤ 選択ダイヤルを押します。
メニューを終了し、通常の画面に戻ります。

参考



表示が出ないときは

画面表示入/切ボタン (P27) を約1秒以上押します。

ビデオを撮影すると、タイムコード（ビデオ撮影開始からの「分:秒:フレーム」）が自動的にビデオに記録されます。タイムコードはビデオを編集するときなどに使用します。ここでは、ビデオを再生するときにタイムコードを表示させる方法を説明します。「タイムコード」メニューはお買い上げになった状態では「切」に設定されています。

- ① 電源ダイヤル^{再生}でメニューボタン（P27）を押します。
メニュー選択画面が表示されます。
- ② 選択ダイヤルを上下に動かして「タイムコード」にカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。
「タイムコード」の「切」が点滅します。
- ③ 選択ダイヤルを上下に動かして、選択したい項目を表示させます。
例として「入」を表示させます。



- ④ 選択ダイヤルを押します。
「入」の点滅が消え、選択が確定します。カーソルは自動的に「メニュー終了」に移動します。
- ⑤ 選択ダイヤルを押します。
メニューを終了し、通常の画面に戻ります。画面左下にタイムコードが表示されます。

参考



表示が出ないときは

画面表示入/切ボタン（P27）を約1秒以上押します。

参照



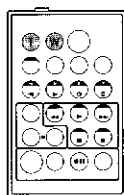
- ・タイムコードについて知りたいときは「ワンポイント一知ってると便利。」「タイムコードと無記録部分」(P50)

別売のリモコン (P30) を使うと、ムービーでビデオを再生しているときに、画面をズームすることができます。また、ズームした映像の中のお好きな場所に画面を移動させることができます。ここでは画面のズームと移動方法を説明します。



ビデオの再生中にリモコンの①または②を押します。

①を押すと映像が大きくなります。②を押すと映像が小さくなります。映像は約10倍まで大きくすることができます。一時停止ボタンを押して映像を静止させてからズームすることもできます。スロー再生 (P56) 中の画面もズームできます。



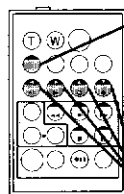
通常再生



ズーム再生



シフトボタンを押しながら、上下左右ボタンを押して画面を移動させます。



シフトボタン

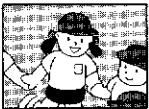
上下左右ボタン



ズーム再生



画面移動



参考



・ムービーをリモコンで操作するときは

リモコン受光部 (P26) に向かってリモコンを操作してください。

・ズームをやめたいときは

通常の再生画面の大きさに戻るまで③を押します。または、リモコンの停止ボタンを押した後に再生ボタンを押します。

・ズームしたときの映像は

映像をデジタルで拡大処理するため、通常の再生画面よりも多少再生映像が粗くなります。

・再生映像に演出効果の「ゴースト」を加えたときは

ズーム中でも通常再生画面に戻ります。

別売のリモコン (P30) を使うと、テープを再生しているときに画面に演出効果 (P79) を加えることができます。ここでは再生画面に演出効果を加える方法を説明します。

- 1** ビデオの再生中にリモコンの「演出効果ボタン」を押します。
液晶画面やテレビに「演出効果」画面が表示されます。



- 2** 「演出効果ボタン」を押して、映像に加えたい演出効果を選択します。
ボタンを押すたびにカーソルが移動します。演出効果を選択すると約2秒後に「演出効果」画面が消え、選択した演出効果が設定されます。

- 3** 演出効果を加えたい場面で「演出効果入/切ボタン」を押します。
演出効果をやめたいときは：もう一度「演出効果入/切ボタン」を押します。
もう一度、同じ効果を加えたいときは：「演出効果入/切ボタン」ボタンを押します。
違う演出効果を加えたいときは：手順1から繰り返します。

参考



・ムービーをリモコンで操作するときは

リモコン受光部 (P26) に向かってリモコンを操作してください。

- ・映像をズーム中に演出効果の「ゴースト」を加えたときは
映像ズームは中止され、通常の画面サイズに戻ります。

4.2 かつこよく編集する

ここでは、撮ったビデオを編集する方法を説明します。ダビングはもちろん、アフレコ編集を行ったり、別の場面やタイトルを追加（インサート編集）することができます。また、好きな場面だけを抜き出して編集することもできます。

ここでは、ムービーで撮影したビデオをビデオデッキを使ってダビングする方法を説明します。S映像端子付きのビデオデッキとドッキングステーションに接続したムービーをS映像コードを使ってダビングすると、より高画質のビデオをダビングできます。

- 1** 電源を入れない状態で、ムービーとビデオデッキを接続します。
S映像でビデオをダビングしたいときは、ドッキングステーションのS2出力端子とビデオデッキのS入力端子をS映像コード（P25）で接続してください。
- 2** ムービーを再生し、ダビングしたいところでビデオデッキの録画ボタンを押します。
ムービーまたはリモコンを操作してテープを再生してください。

参考



- ビデオデッキでダビングする前に
ご使用になるビデオデッキの取扱説明書もお読みください。
- カットしたい映像があるときは
ビデオデッキの一時停止ボタンを押してダビングを一時停止させ、ダビングしたい場面をテレビや液晶画面に表示させてから再開してください。
- ダビングを終了したいときは
ビデオデッキの録画停止ボタンを押します。
- 画面に表示されるメッセージを消してダビングしたいときは
テレビの画面に表示されるメッセージは、そのままダビングされます。メッセージを消してからダビングしてください。「再生音声表示」（P33）を消したいときは、リモコンの画面表示ボタンを押します。「日時表示」や「タイムコード表示」を消したいときは、メニュー選択画面で「日時表示」または「タイムコード」を「切」に設定します（P88、89）。



- ・画面に「音声アフレコできません」と表示されたときは

LPモードで撮影したテープ、または48kHzで音声記録したテープにはアフレコ編集できません。

- ・別の場面からアフレコ編集を再開したいときは

リモコンの「一時停止ボタン」を押します。ビデオが静止画になります。リモコンの停止ボタンを押してアフレコ編集を終了し、アフレコ編集を再開したい場面を表示させてから再び編集を行ってください。

- ・アフレコ編集を終了したいときは

リモコンの停止ボタンを押します。

- ・別売のマイクを使ってアフレコ編集したいときは

ムービーのマイク入力端子(P26)にマイクを接続してナレーションなどを吹き込みます。

- ・アフレコ編集で吹き込んだ音声は

撮影時の音声とは別に、アフレコ編集した声がステレオ音声で記録されます。

- ・自分の声を聞きながらアフレコ編集したいときは

アフレコ編集中の声は、ムービーのスピーカーからは出ません。ムービーのAV出力端子(P26)に別売のヘッドホン接続して、声を聞いてください。



- ・アフレコ編集した声を再生したいときは「4.1.1 再生時の音声を切り替える」(P86)

録画モードSPで撮影済みのビデオに、後でタイトルなど別の場面を挿入することができます。タイトルを書いた紙などを用意してからインサート編集を行ってください。インサート編集は別売のリモコン (P30) を使用して行います。

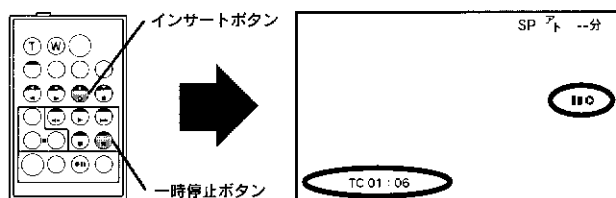
- 1 ビデオを再生し、インサート編集を終える場面でビデオを一時停止させます。

終える場面のタイムコードを確認してください。

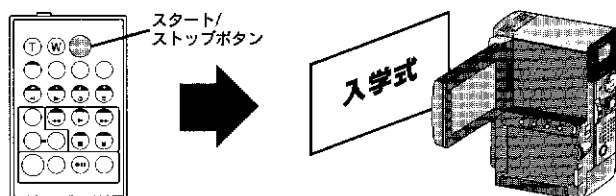
- 2 インサート編集を開始する箇所までビデオを巻き戻し、「一時停止ボタン」を押します。

- 3 リモコンの「インサートボタン」を押しながら「一時停止ボタン」を押します。

液晶画面にインサート編集アイコンとタイムコードが表示されます。



- 4 リモコン、またはムービーの「スタート/ストップボタン」を押して、あらかじめ用意してあるタイトルなどをインサートします。



5 リモコンの「スタート/ストップボタン」を押して、手順1で確認したタイムコードの位置でインサートを終了します。

6 停止ボタンを押して、インサート編集を終了します。

参考



- ・画面に「インサート編集できません」と表示されたときは
LPモードで撮影したテープにはインサート編集できません。
- ・インサート編集した後の映像と日時は
ムービーが自動的に「映像エリア」と「サブコードエリア」を書き換えるため、映像と日時が新しく記録されます。
- ・こんなときはきれいにインサート編集できません
テープの無記録部分でインサート編集すると、映像や音声が入ることがあります。

参照



- ・タイムコードが液晶画面に表示されていないときは  「4.1.3 再生画面にタイムコードを表示する」(P89)
- ・インサート編集画面に映像効果を加えたいときは  「4.1.5 再生画面に演出効果を加える。」(P91)

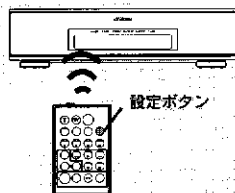
4.2.4 ビデオを自動で編集する (自動編集)

撮影済みのビデオの中から好きな場面を8場面まで選んで、ビデオデッキのテープに自動的にダビングすることができます。あらかじめアフレコ編集 (P93) やインサート編集 (P95) してあるビデオを編集すると、テレビドラマや映画のようなビデオを作成することができます。編集する場面と場面の間に場面切替効果 (P73) を挿入したり、演出効果 (P79) を使って映像そのものに変化をつけることもできます。自動編集は、ムービー、および別売のリモコン (P30) とご家庭のビデオデッキを接続して行います。

● ご使用になるビデオデッキをリモコンに登録する ●

自動編集では、別売のリモコンを使用してご家庭のビデオデッキを操作します。ここでは、自動編集を行う前に、ご家庭のビデオデッキのメーカーをリモコンに登録する方法を説明します。ビデオデッキをリモコンに登録しておくと、自動編集以外でもリモコンでご家庭のビデオを操作できるようになります。

- ① ビデオデッキの電源を切ります。
 - ② ご使用のビデオデッキのメーカー名を確認します。
 - ③ 「設定ボタン」を押したまま「メーカー別リモコン設定表」(次ページ) に対応したボタン「リモコンのボタン1」、「リモコンのボタン2」を順番に押します。
- ビデオデッキの電源が入れば設定終了です。同じメーカーでも信号の種類は複数あります。「組合せA」でビデオデッキが反応しないときは、「組合せB」「組合せC」...の順でボタンを押してください。



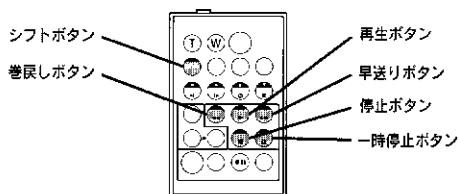
●メーカー別リモコン設定表

メーカー名	組合せ	リモコンのボタン1	リモコンのボタン2
ビクター	A	ビデオ準備	巻戻し
	B	ビデオ準備	停止
	C	ビデオ準備	シフト
アカイ	A	停止	早送り
	B	停止	再生
	C	ここから/ここまで	ここから/ここまで
サンヨー	A	停止	再生
	B	シフト	一時停止
	C	シフト	プログラム編集入/切
	D	ここから/ここまで	ビデオ準備
シャープ	A	巻戻し	一時停止
	B	巻戻し	プログラム編集入/切
ソニー	A	停止	一時停止
	B	停止	プログラム編集入/切
	C	シフト	ビデオ準備
	D	シフト	巻戻し
東芝	A	停止	ビデオ準備
	B	停止	巻戻し
NEC	A	シフト	ここから/ここまで
	B	シフト	修正
日立	A	停止	停止
	B	停止	シフト
フナイ	A	ここから/ここまで	シフト
松下	A	巻戻し	シフト
	B	巻戻し	ここから/ここまで
	C	巻戻し	巻戻し
	D	ビデオ準備	再生
	E	巻戻し	修正
三菱	A	停止	ここから/ここまで
	B	停止	修正

4

設定ボタンを離します。

ビデオデッキにリモコンを向け、「シフトボタン」を押しながら「再生ボタン」「早送りボタン」「巻戻しボタン」「一時停止ボタン」「停止ボタン」を押して、ビデオデッキが正常に動作することを確認してください。



・ リモコンのボタン電池がなくなったときは

設定したビデオデッキのメーカー設定も消えてしまいます。ボタン電池を交換してメーカー設定をやり直してください。

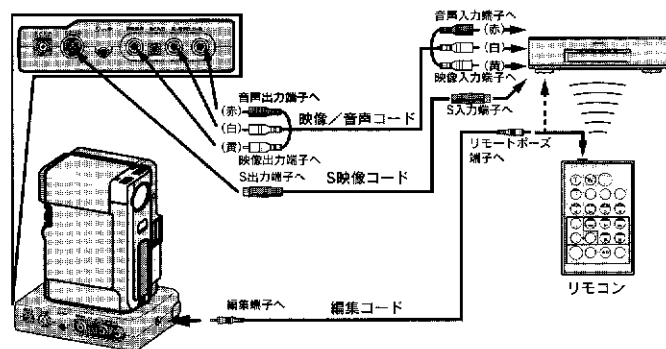
・ リモコンでビデオデッキを操作できないときは

機種によってはリモコンでのビデオデッキのメーカー設定ができないものや、特定のボタンだけ操作できないものもあります。ご了承ください。

ドッキングステーションにリモコンとビデオを接続する

自動編集を行う前に、ドッキングステーション、ムービーと別売のリモコン (P30)、およびご家庭のビデオデッキを接続します。ビデオデッキにS入力端子があるときは、S映像コードでドッキングステーションのS2出力端子とビデオデッキのS入力端子を接続してください。

- 1 ドッキングステーションへ接続したムービーに、リモコンとご家庭のビデオデッキとを接続します。
再生した映像がテレビに映るようにします。



注意



- 必ず電源を切った状態で接続してください
電源を入れたまま接続すると、感電や故障の原因になります。

参考



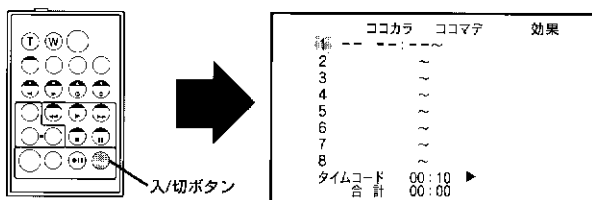
- ビクターのリモートボーズ端子付ビデオデッキをご利用のときは編集コードでドッキングステーションの編集端子とビデオデッキのリモートボーズ端子を接続してください。
- リモコンでビデオデッキを操作するときは
メーカー設定 (P97) をした上で、リモコンをビデオデッキに向けて、シフトボタンを押しながら操作したいボタンを押してください。

好きな場面を選んでダビングする

撮影済みのビデオの中から好きな場面を8場面まで選んで、ビデオデッキのテープに自動的にダビングします。編集する場面と場面の間に場面切替効果を挿入したり、演出効果を使って映像そのものに変化をつけることもできます。

1 リモコンを使ってビデオを再生し、自動編集の「入/切ボタン」を押します。

リモコンはムービー前面のリモコン受光部に向けて操作してください。液晶画面に自動編集表示画面が表示されます。



2 ムービーの液晶画面やテレビに編集開始場面を表示させ、リモコンの「ここから/ここまでボタン」を押します。

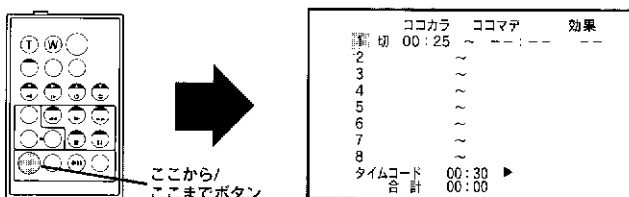
ムービーの液晶画面やテレビに編集開始場面のタイムコードが表示されます。

参考



- ・場面の撮り始めに変化を付けたいときは (P73)

リモコンの場面切替ボタンを押します。ボタンを押すたびに液晶画面やテレビに表示される場面切替アイコンが変わります。利用したい場面切替アイコンが表示されるまでボタンを押してください。ただし、自動編集する最初の場面では映像が記録されていないため、「最後の映像によるコーナーワイプ」などを使用することはできません。





ムービーの液晶画面やテレビに編集終了場面の映像を表示させ、リモコンの「ここから/ここまでボタン」を押します。

ムービーの液晶画面やテレビに編集終了場面のタイムコードが表示されます。

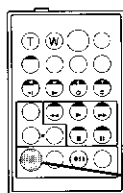


- ・場面の録り終わりに変化を付けたいときは (P73)

リモコンの場面切替ボタンを押します。ボタンを押すたびに液晶画面やテレビに表示される場面切替アイコンが変わります。利用したい場面切替アイコンが表示されるまでボタンをくり返し押してください。録り終わりの場面切替効果を決めると、次の編集開始映像が自動的に録り終わりの場面切替効果で始まります。ただし、自動編集する最後の場面では「最後の映像によるコーナーワipe」などを使用することはできません。また、場面の録り終わりで場面切替効果を使用すると、編集終了時点からフェードアウトやワイプアウトを行うため、その時間がビデオの編集時間に加算されます。

- ・映像そのものに変化を付けたいときは (P79)

リモコンの演出効果ボタンを押します。ボタンを押すたびに液晶画面やテレビに表示される演出効果アイコンが変わります。



ここから/
ここまでボタン

	ココカラ	ココマデ	効果
1	00:25	~ 02:05	-- --
2	--:--	~	
3		~	
4		~	
5		~	
6		~	
7		~	
8		~	
タイムコード	05:40	▶	
合計	01:40		



手順2、3を繰り返して自動編集したい場面を登録します。

場面の始めに場面切替を設定したときは、設定した効果のアイコンがカウンターの左側に表示されます。場面の終わりに場面切替を設定したときは、設定した効果のアイコンがカウンターの右側に表示されます。場面に演出効果を設定したときは、設定した効果のアイコンが「効果」に表示されます。何も設定していないときは「切」が表示されます。

	ココカラ	ココまで	効果
1	切	00:25~02:05	切
2	切	07:18~08:31	切
3	切	03:33~05:53	切
4	切	09:30~13:15	切
5	切	15:55~16:10	切
6	---	---	---
7	---	---	---
8	---	---	---
	タイムコード	16:20	
	合計	09:17	



最初に登録した場面1の付近までビデオを巻き戻し、ビデオを一時停止させます。

リモコンやムービーの「巻戻しボタン」でビデオを巻き戻し、「一時停止ボタン」を押します。



ビデオデッキのリモコン受光部に向けて、リモコンの「ビデオ準備ボタン」を押します。

ビデオデッキが録画一時停止になります。一時停止にならないときは、手でビデオデッキを操作して録画一時停止にしてください。



ムービーの「スタート/ストップボタン」を押します。

自動編集が始まり、指定した場面を最後まで自動的にダビングします。ダビングが終了するとムービーが一時停止し、ビデオデッキは録画一時停止状態になります。



ムービーとビデオデッキを停止させ、編集を終了します。



・画面に表示されるメッセージを消して自動編集したいときは

テレビの画面に表示されるメッセージは、自動編集でもそのまま記録されます。メッセージを消してから自動編集してください。「再生音声表示」(P33)を消したいときは、リモコンの画面表示ボタンを押します。「H時表示」や「タイムコード表示」を消したいときは、「日時表示」、または「タイムコード」を「切」(P88、89)に設定してください(自動編集表示は自動編集をスタートすると消え、ビデオには記録されません)。

・編集したい場面を早く探したいときは

リモコンやムービーの早送り、巻戻しボタンで場面を探し、再生ボタンか一時停止ボタンで場面を表示させます。

・各場面のタイムコードとタイムコードの合計時間は

編集開始場面と終了場面のタイムコードには1秒以下の数値(フレーム)が表示されないため、各場面のタイムコードの時間と合計時間が合わないことがあります。

・自動編集の登録場면을修正したいときは

リモコンの「修正ボタン」を押します。ボタンを押すたびに最後から登録場面が消去されます。

・ダビング中のリモコンの位置は

ビデオデッキのリモコン受光部に向けてください。障害物があるとうまくダビングできません。

・こんなときは自動編集できません

- ・同じタイムコード(P50)が2つ以上存在するビデオでタイムコードを指定しても、どのタイムコードかわからないため誤動作することがあります。
- ・編集終了場面のタイムコードの値が編集開始場面の値より小さいときは自動編集できません。
- ・編集終了場面と開始場面までの早送り時間がビデオデッキの一時停止可能時間(当社の場合約5分以内)を超えるときは、自動編集できません。
- ・リモコンのプログラム編集入/切ボタンを押して「切」にしたときは、自動編集に登録した内容すべてが消えてしまいます。
- ・編集開始場面と終了場面の前後に無記録部分があるときは、ブルーバック(青い画面)を記録してしまうことがあります。
- ・自動編集中にムービーを操作すると、ビデオデッキが録画一時停止状態になり、自動編集を中止します。
- ・編集終了場面を決めずにダビングしたときはビデオの最後まで自動的にダビングします。



- ・より正確に自動編集したいときは  4.2.5 より正確に自動編集する(P106)

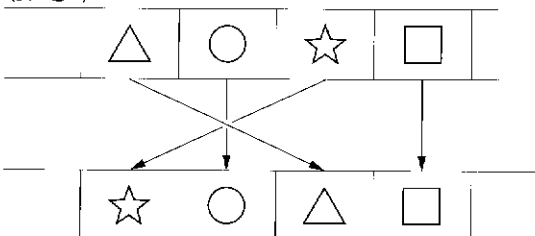


知っておきたい自動編集のしくみ

●普通に自動編集したときは

撮影済みのビデオの中から最大8つまでの場面を指定して、お好きな順番に並べ替えてダビングすることが出来ます。普通に自動編集するとビデオは次のようにダビングされます。

撮影済みテープ
(ムービー)

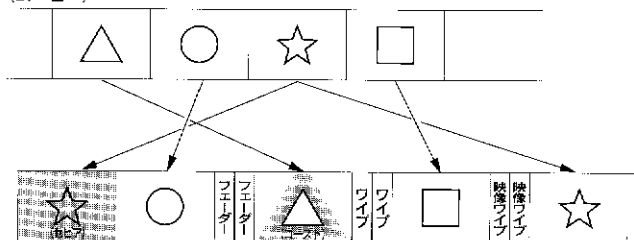


編集済みテープ
(ビデオデッキ)

●場面切替や演出効果を入れて自動編集したときは

自動編集するビデオの最初と終わりに場面切替 (P73) を入れたら、映像そのものに演出効果 (P79) を付けてダビングすることが出来ます。場面切替や演出効果を入れて自動編集するとビデオは次のようにダビングされます。

撮影済みテープ
(ムービー)



編集済みテープ
(ビデオデッキ)

ビデオデッキには反応の早いものと遅いものがあります。自動編集(P97)でムービーとビデオデッキを同時にスタートさせてもそれぞれ動き出すタイミングが異なるため、余計な場面をダビングしてしまったり、必要な場面をダビングできなかったりすることがあります。そんなときはムービー側でビデオデッキの録画タイミングの誤差を補正してから再度自動編集を行ってください。シンクロ補正は、ムービー、および別売のリモコン(P30)とご家庭のビデオデッキを接続して行います。

録画タイミングのズレを確認する

任意の場面を自動編集してみて、ムービーのビデオ再生開始タイミングとビデオデッキの録画開始タイミングのズレを確認します。

適当な場面を1場面だけ自動編集します。

録画タイミングのズレを確認するだけなので、自動編集の指定は1場面だけでかまいません。自動編集する場面は、録画タイミングのズレがわかりやすいように場面が切り替わっている場面を指定してください。

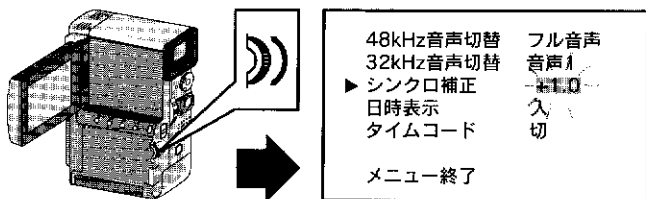
ダビングしたビデオを巻き戻し、再生します。

指定した編集開始場面よりも前の場面が録画されているときは、ムービーのビデオ再生開始場面よりも先にビデオデッキが録画を開始しています。また、指定した編集開始場面よりも後の場面から録画されているときは、ムービーのビデオ再生開始時点よりも後にビデオデッキが録画を開始しています。このようなときは録画タイミングのズレを調節する必要があります。

録画タイミングのズレを補正する

「録画タイミングのズレを確認する」(P106) でムービーのビデオ再生開始タイミングとビデオデッキの録画開始タイミングのズレがあったときは、録画タイミングのズレを補正します。

- ① **【再生】でメニューボタン (P27) を押します。**
メニュー選択画面が表示されます。
- ② **選択ダイヤルを上下に動かして「シンクロ補正」にカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。**
「シンクロ補正」の数値が点滅します。
- ③ **選択ダイヤルを上下に動かして、「シンクロ補正」の数値を設定します。**
-1.3 ~ +1.3 秒まで、0.1 秒単位で補正値を設定することができます。ムービーのビデオ再生開始場面よりも先にビデオデッキが録画を開始しているときは、マイナス (-) の値を設定します。ムービーのビデオ再生開始場面よりも後にビデオデッキが録画を開始しているときは、プラス (+) の値を設定します。選択ダイヤルを上に戻すと数値が大きくなります。下に回すと数値が小さくなります。ここでは「+1.0」を設定します。



- ④ **選択ダイヤルを押します。**
補正値の点滅が消え、設定が確定します。カーソルは自動的に「メニュー終了」に移動します。
- ⑤ **選択ダイヤルを押します。**
メニューを終了し、通常の画面に戻ります。



・自動編集を行う前に

数回自動編集のテストを行って補正値が適切であることを確認してから、最終的な自動編集を行ってください。

・補正しても録画タイミングが合わないときは

ビデオデッキによっては、録画タイミングのズレを補正しきれないことがあります。ご了承ください。

ムービーの設定を 変える

ここでは、ムービーの各種システム設定の変更方法と、H時の設定方法を説明します。

参照



- ・フルオートモードでビデオを撮影するには「第2章 とにかく撮って、とにかく見る」(P45)
- ・より効果的にビデオを撮影するには「第3章 よりプロっぽく撮る」(P61)
- ・設定を変えてビデオを再生するには「4.1 思いどおりに再生する」(P86)
- ・ビデオを編集するには「4.2 かっこよく編集する」(P92)

5.1 ムービーのシステム設定を変える

ここでは、電源ダイヤルで **[M]**、**[5S]**、**[🎞️]** (セルフタイマー) を選択しているときにメニューボタン (P27) を押して、ムービーのシステム設定を変更する方法を説明します。

メニュー名	概要	設定内容 (*)
記念写真	・「ワク有り」: 記念写真が白枠付きで記録されます。 ・「ワク無し」: 白枠なしで記録されます。	ワク有り/ワク無し
シーン	・「5S」: スタート/ストップボタンを押すと、自動的に約5秒間撮影します。 ・「5SD」: 5秒撮り撮影の後、5分以内に再び5秒撮り撮影を行うと、前の映像の最後 (静止画) に約2秒間映像を重ねて撮影してから (オーバーラップ撮影) 5秒撮り撮影を行います。 ・「アニメ」: スタート/ストップボタンを押すと約1/8秒間撮影を行います。これを繰り返すことで、アニメーションのような映像を撮ることができます。	5S /5SD/アニメ
ブザー ノタリー	・「入」: ムービーの動作確認音、記念写真の「カシャッ」という効果音、撮影中ランプ (タリーランプ) の点灯がオンになります。 ・「切」: オフになります。ただし、記念写真の「カシャッ」音は、テープに録音されます。	入/切
ボイス ポジション	・「オート」: 風による雑音など軽減して録音します。 ・「切」: 自然のままの音を録音します。	切/オート
音声モード	・「32kHz」: 後でアフレコ編集することができます。 ・「48kHz」: アフレコ編集できません。	32kHz /48kHz

* 最初に設定されている内容は、 で示してあります。

メニュー名	概要	設定内容(*)
IDナンバー	・別売のJLIPプレーヤーバックなどを使ってパソコンやJLIP対応のAV機器からムービーを操作するときに必要なIDナンバーを設定することができます。 「01」～「99」まで設定できます。	01～99 (06)

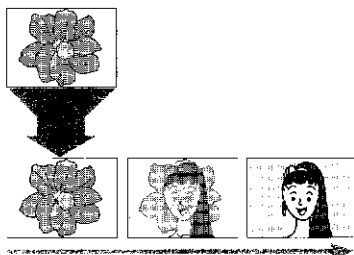
* 最初に設定されている内容は、**06**で示してあります。

参考



●シーン

- ・連続5秒撮り撮影でオーバーラップ撮影したときは(5SD)次のように映像が記録されます。



- ・「録画モード」をLPでアニメ撮影したときは「LP」が点滅し、SPモードで記録されます。

●音声モード

- ・ビデオと一緒に録音される音声は

32kHzモード録音では2つのステレオ音声のうち、1つのステレオ音声に録音されます。残りのステレオ音声を使って後からアフレコ編集することができます。48kHzモード録音では1つのステレオ音声しかないため、後でアフレコ編集することはできません。

48kHzモードの場合		32kHzモードの場合			
左	右	左	右	左	右
L	R	L1	R1	L2	R2

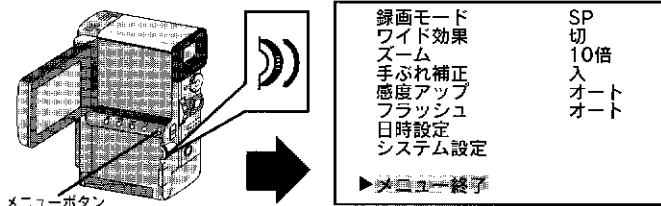
で印の付いているチャンネルに録音します。

解説
4.1.1

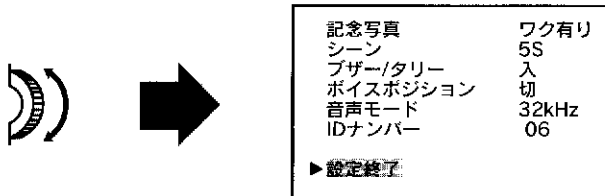
- ・再生するときは**4.1.1**「再生時の音声を切り替える」(P86)

ここでは、システム設定メニュー共通の設定方法を説明します。

- ①** 電源ダイヤルで[M]、[5S]、 (セルフタイマー) を選択しているときに、メニューボタンを押します。
メニュー選択画面が表示されます。



- ②** 選択ダイヤルを上下に動かして「システム設定」にカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。
「システム設定」のサブメニューが表示されます。



- ③** 選択ダイヤルを上下に動かして選択したい項目にカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。
例として「記念写真」を選択します。
カーソルの点滅が止まり、設定内容が点滅します。

- ④** 選択ダイヤルを上下に動かして、選択したいメニューを表示させます。
選択ダイヤルを上下に動かすたびに、設定可能な項目が点滅表示されます。ここでは「ワク無し」を選択します。

- 5** 選択ダイヤルを押します。
「ワク無し」の点滅が消え、選択が確定します。カーソルは自動的に「設定終了」に移動します。
- 6** 選択ダイヤルを2回押します。
メニューを終了し、通常の撮影画面に戻ります。

5.2 日時を設定する

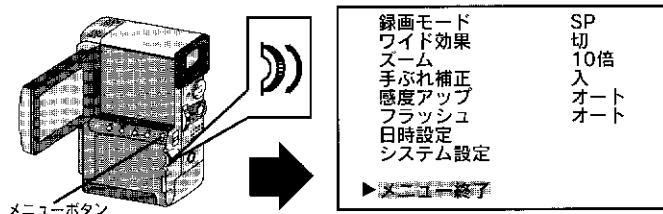
ここでは、電源ダイヤルで、**【5S】**、（セルフタイマー）を選択しているときにメニューボタンを（P27）押して、ムービーの画面に表示されるメッセージの表示方法や日時を変更する方法を説明します。

メニュー名	概要	設定内容（*）
オン スクリーン	・「入」：メッセージがテレビに表示されます。 ・「切」：メッセージがテレビに表示されません。	 入
日時表示	・「入」：ビデオの再生中にムービーの液晶画面やテレビに日時が表示されます。 ・「切」：日時が表示されません。	 切
年月日 時計	・選択ダイヤルを押すと「年月日」「時計」の「年」が点滅します。選択ダイヤルを上下に動かして「年」を合わせます。選択ダイヤルを上にも動かすと数値が大きくなります。下にも動かすと小さくなります。数値を表示させて選択ダイヤルを押し、「月」「日」「時」「分」の順で合わせます。 ・年は西暦の下2ケタで合わせます。 ・時計は12時間表示方法です（AMは午前、PMは午後） ・AM12：00 夜中 ・PM12：00 正午	現在の年月日と現在の時刻が表示されています。

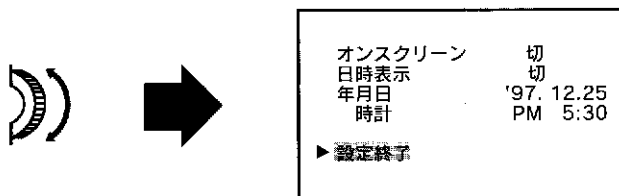
* 最初に設定されている内容は、で示してあります。

ここでは、日時設定メニュー共通の設定方法を説明します。

- ① 電源ダイヤルで[M]、[5S]、☺(セルフタイマー)を選択しているときに、メニューボタンを押します。
メニュー選択画面が表示されます。



- ② 選択ダイヤルを上下に動かして「日時設定」にカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。
「日時設定」のサブメニューが表示されます。



- ③ 選択ダイヤルを上下に動かして選択したいにカーソルを合わせ、選択ダイヤルを押します。
ここでは「オンスクリーン」を選択します。
カーソルの点滅が止まり、設定内容が点滅します。

- ④ 選択ダイヤルを上下に動かして、選択したい項目を表示させます。
選択ダイヤルを上下に動かすたびに、設定可能な項目が点滅表示されます。ここでは「切」を選択します。

- 5** 選択ダイヤルを押して設定した内容を決定します。
カーソルが自動的に「設定終了」に移ります。

- 6** 選択ダイヤルを2回押します。
メニューを終了し、通常の撮影画面に戻ります。

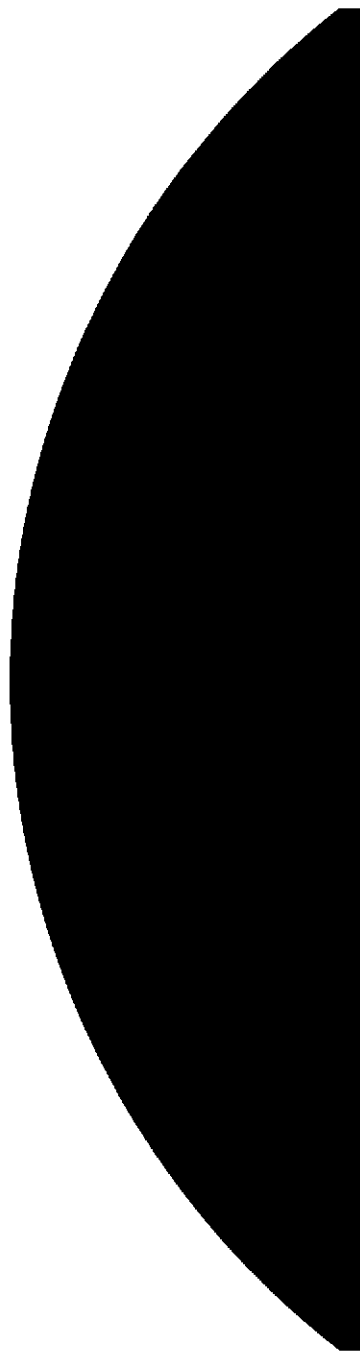
注意



「日時を設定してください!」が表示されたときは、時計用電池（内蔵）がなくなっています。ムービーにバッテリーやACアダプターなどの電源を24時間以上接続してください。時計用電池が充電されます。

付録

ここでは、ムービーの日常のお手入れ方法や海外
でお使いになるときの注意事項、および故障時の
対応、メニュー一覧、用語説明、索引、仕様などを
まとめています。必要に応じてお読みください。

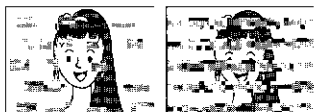


6.1 日常のお手入れについて

ここでは、ムービーの日頃のお手入れ方法を説明します。

ムービーを長時間使用していると、ヘッドに空気中のほこりやちりが付着します。また、傷のあるテープを使用したときにテープの磁性粉がはがれてヘッドに付着したりします。ヘッドが汚れると次のような症状が出ます。

- ・再生しても音や映像が出ない
- ・再生するとモザイク（ブロック状のノイズ）が出る



・撮影してもファインダー内にヘッド目づまり表示 (⊗) (P34) が出る
このようなときは、別売のデジタルビデオヘッドクリーナー (M-DV2CL) テープをムービーで再生して、ヘッドを清掃してください (M-DV2CLを長時間繰り返し再生すると、ヘッド摩耗の原因になりますのでご注意ください。ムービーでM-DV2CLを再生すると、20秒後に自動的に再生を停止します)。詳しくはM-DV2CLの取扱説明書をご覧ください。



- ・M-DV2CLでクリーニングしても鮮明な映像が映らないときはヘッドが摩耗しています。お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。
- ・定期点検を行ってください

ヘッドやテープを動かす機械部品は、お使いになる間に汚れたり、摩耗したりします。ムービーの性能を維持し、いつも美しい画面をご覧いただくために、およそ使用時間1000時間を目安に定期点検に出されることをおすすめします。定期点検は、お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

バッテリーやACアダプターを外して電源を切ってから、次のように入手入れしてください。

- ・汚れを乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。
- ・ひどい汚れは水で薄めた中性洗剤に布を浸して固く絞ってから汚れを拭き、乾いた布で水分を拭き取ってください。



- ・ベンジンやシンナーは使用しないでください

ボディの損傷や故障の原因になります。

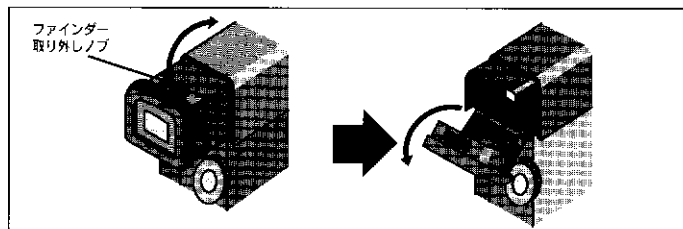
- ・化学ぞうきんや洗剤をご使用になるときは
ご使用になる製品の注意書きに従ってください。

市販のレンズブロワーではこりを落とし、添付のクリーニングクロス、または市販のレンズクリーニングペーパー等で汚れを落としてください。汚れたまま放置しておくと、かびなどが発生することがあります。

ファインダー内部の汚れを取る

ファインダーの内部にゴミなどが入ったときは、細いドライバーなどでファインダー取り外しノブを起し、レンズブロワーや乾いた柔らかい布などでゴミ、汚れを取ってください。

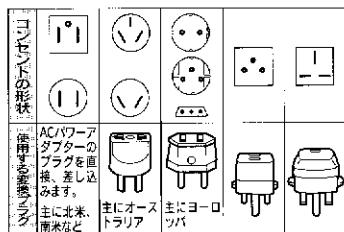
終わったらファインダーを確実に閉め、ノブを戻します。



6.2 海外でお使いになるときは

別売のACアダプターは海外でも使用可能です。バッテリーを充電したりコンセントから直接電源を確保できます。ただし、コンセントの形状は国によって異なります。訪問国のコンセントに合った変換プラグをご用意ください。詳細は旅行代理店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

● コンセントの形状と使用する変換プラグ ●



● 現地のテレビで再生する ●

NTSC方式の映像、音声入力端子付きテレビが必要です。NTSC方式を採用している国は以下の通りです。

アメリカ合衆国	バミューダ	パナマ	エクアドル
プエルトリコ	バハマ	エルサルバドル	ベネズエラ
バルバドス	カナダ	ペルー	ミャンマー
キューバ	米領サモア	ベトナム	グアム
ボリビア	フィリピン	韓国	グアテマラ
ホンジュラス	チリ	コスタリカ	ミクロネシア
ドミニカ	コロンビア	メキシコ	スリナム
トリニダード・トバゴ	台湾	ニカラグア	ハイチ

参考



・再生できるテープは

日本と同じNTSC方式で撮影したミニDVテープが再生できます。

・ムービーが海外で故障したときは

日本にお持ち帰りになった後、お買い上げ販売店にご相談ください。海外でのアフターサービスは行っておりませんので、ご了承ください。

6.3 故障かな? とお考えになる前に

このムービーはマイコンを使用しています。

雑音や妨害ノイズにより正常に動作しないことがあります。そんなときはムービーから電源(バッテリー、ACアダプターなど)を外し、リセットボタン(P27)を押したあと、あらためてご使用ください。

それでも不具合があり、以下の処置をしても改善されない場合は、お買い上げ販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

こんなとき	ご確認ください	参照ページ
電源が入らない	●電源は正しく接続されていますか? ●バッテリーは充電されていますか? ●液晶画面を開いていますか? またはファインダーを引き出していますか(撮影時)?	P37、41 P35 P42 P43
「日時を設定してください!」が表示される	●内蔵の時計用電池がなくなっています。ACアダプターなどの電源を24時間以上接続してください。	P41
撮影できない	●テープの漂白防止用つまみが「SAVE」側になっていませんか? ●「テープオワリ」になっていませんか? ●電源ダイヤルが「再生」になっていませんか? ●テープカバーが開いていませんか?	P17 P34 P44 P26
映像が出ない	●電源をもう一度入れ直してみてください	P42
メニューボタンの機能が使えない	●電源ダイヤルが「A」になっていませんか?	P44
選択ダイヤルの機能が使えない	●電源ダイヤルが「A」[SS] (セルフタイマー) になっていませんか?	P44
自動でピントが合わない	●「フォーカス」が「手動」になっていませんか? ●暗いところや明暗差のないものを撮影していませんか? ●レンズにゴミや水滴などが付いていませんか?	P66 P66 P19
テープが入らない	●テープの向きが間違っていないですか? ●バッテリーの容量が少なくなっていないですか?	P38 P34
再生、巻戻し、早送りができない	●電源ダイヤルが「A」[M] [SS] (セルフタイマー) になっていませんか?	P44
テープは回っているが再生されない	●カセットカバーが開いていませんか? ●テレビのチャンネルがビデオ用になっていますか?	P26 P57
5秒撮影で5秒以内に撮影が終わってしまう	●「シーン」で「アニメ」を選んでいませんか?	P110
「感度アップ」で「オート」を選択しているのに暗いところで明るく撮れない	●撮影時の光源によっては画面のチラつきを抑えるため、1/30秒シャッターにならないことがあります。	P62

こんなとき	ご確認ください	参照ページ
記念写真撮影ができない ズームできない	●「ワイド効果」で「ワイド」を選択しているときは、記念写真撮影できません。	P62
記念写真撮影したが「白熱」がない	●「記念写真」を「ワク有り」に設定してください。	P110
デジタルズームできない	●「ズーム」が「10倍」に設定されているときは10倍ズームまでしかできません。 ●「演出効果」で「ゴースト」を選択しているときは、ズームは10倍ズームまでしか使えません。 ●「場面切替」で最後の映像ワイプ効果や「オーバーラップ」を選択しているときはズームは使えません。 ●「シーン」で「SSD」を選択し、電源ダイヤル【SS】（5秒振り撮影モード）で撮影しているときは、ズームは10倍ズームまでしか使えません。 ●ズーム中に連続5秒撮影で撮影でオーバーラップ撮影すると、デジタルズームは解除されます。	P62 P80 P73 P110 P74
「演出効果」や「場面切替」機能が使えない	●電源ダイヤルが【A】または【SS】になっていませんか？	P44
「場面切替」の最後の映像（静止画）での切替が使えない	●最後の場面を記憶している状態になっていますか？ ●最後の場面を撮影した状態で、電源ダイヤルを「切」にしませんでしたか？ ●電源が切れていませんか（撮影一時停止を5分以上続けると、自動的に電源が切れます）？	P73 P44 P47
「場面切替」の「オーバーラップ」が使えない	●最後の場面を記憶した状態で「演出効果」を設定、変更しませんでしたか？ ●「演出効果」の「セピア」や「ブラック&ホワイト」「高感度」を選択していませんか？ ●「ワイド効果」で「ワイド」を選択していませんか？ 選択しているときは使えません。	P79 P79 P62
「場面切替」の最後の映像（静止画）でのワイプ効果が使えない	●「演出効果」の「高感度」を選択していませんか？ ●「ワイド効果」で「ワイド」や「シネマ」を選択していませんか？	P80 P62
「場面切替」の「フェーダー・白黒」が使えない	●「演出効果」の「セピア」や「ブラック&ホワイト」を選択していませんか？	P80
「演出効果」の「ゴースト」が気えない	●「ワイド効果」で「ワイド」を選択していませんか？ ●「場面切替」の最後の映像（静止画）でのワイプ効果や「オーバーラップ」で撮影していませんか？ ●連続5秒撮影でオーバーラップ撮影（P74）していませんか？ ●「場面切替」のフェーダー効果を使ってフェードイン、フェードアウトしていませんか？	P62 P73 P53 P73
「演出効果」の「映画効果」や「ストロボ」を選択してもコマ落とし効果が使えない	●「場面切替」の最後の映像（静止画）でのワイプ効果や「オーバーラップ」で撮影していませんか？ ●連続5秒撮影でオーバーラップ撮影していませんか？	P73 P111
「白バランス」が設定できない	●「演出効果」の「セピア」や「ブラック&ホワイト」を選択していませんか？	P80
撮影したビデオの端に黒い線が出る	●強い光の当たる被写体を撮影しませんでしたか？ 被写体に強い光が当たると、コントラストの違いで線が出ることがあります。故障ではありません。	—

こんなとき	ご確認ください	参照ページ
映像や音声が入る	●テープの同じ位置でアフレコ編集やインサート編集を何度も行っていないですか?	P93、95
撮影中、液晶画面に日時が出ない	●「日時表示」を「切」にしていますか? ●画面撮影していませんか? ●画面表示入切ボタンを約1秒以上押してみてください。	P88 P49 P27
液晶画面の映像が暗い、または白くなる	●液晶画面の角度や明るさを調節してください。 ●寒い場所でビデオを再生していませんか? 寒い場所では、多少液晶画面が暗く見えます。故障ではありません。 ●液晶画面の寿命が短くなっている可能性があります。お買い上げの販売店、またはお近くのビクターサービス窓口にご相談ください。	P43
液晶画面の裏側が熱くなる	●液晶画面を長時間使用していませんか? 長時間使用すると、液晶画面裏の蛍光灯が温かくなります。液晶画面を切るか電源を切ってしばらく放置しておくで元に戻ります。	—
液晶画面に表がムラが出る	●液晶画面やそのまわりを押しませんでしたか? 液晶画面を圧迫すると映像ムラが生じます。手を離してしばらく放置しておくで元に戻ります。	—
暗い場所で撮影するとコマ落とし効果が出る	●暗い場所で撮影すると自動的にシャッターの速度を遅くして撮影速度を上げるため、コマ落とし効果のような画面になります。自然な動きで撮影したいときは「感度アップ」を「切」、または「AGC」に設定してください。	P62
液晶画面が割れる	●スピーカーの音を大きくしていませんか?	P27
レンズや液晶画面が指紋などで汚れてしまった	●付属のクリーニングクロスや清潔な柔らかい布で、余り力をくわえず拭き取ってください。	P24
液晶画面のアイコン表示が点滅する	●「場面切替」「淡出効果」「手ぶれ補正」機能のうち、同時に使用できない機能を選択しているときは各機能のアイコンが点滅します。	P62、73、79
ファインダーや液晶画面に小さな光る点や黒い点が出る	●液晶画面には99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、常時点灯する画素が生じることがあります。ご了承ください。これらはテープに記録されません。	—
液晶画面の映像が乱れる	●テープの無記録部分の再生、高速再生、および停止再生中は液晶画面の映像が乱れることがあります。故障ではありません。	—
液晶画面に見慣れないマークが出る	●液晶画面の表示一瞥を参照して、適切に対処してください	P34
液晶画面に「E01」など、Eの付いた数字が表示される	●拡大故障を防ぐため、ムービーが操作できなくなります。バッテリーなど電源を取り外し、数分待って表示が消えてからお使いください。表示が消えないときはお買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。テープを傷める場合がありますので、テープを取り出さないでください。	P34
液晶画面にメッセージなどの表示が出ない	●「ゲンスクリーン」を「切」にしていますか? ●画面表示入切ボタンを約1秒以上押してみてください。	P114 P27
液晶画面に映像が表示されない	●ファインダーを引き出していませんか? ●液晶画面の明るさを調節してみてください。 ●液晶画面を180°回転しているときは、液晶画面を一度確実に閉じてください。	P43
ACアダプターの充電ランプがつかない	●低温(10℃以下)や高温(30℃以上)で充電していませんか? 10~30℃の環境で充電してください。周囲の温度が低すぎたり高すぎたりすると、バッテリー保護のため充電が中止されることがあります。	P36
撮影中に音声が聞こえない	●ヘッドホン端子の音量は、再生状態で調節してください。	P56

6.4 メニュー一覧

●メニューボタン(P27)を押して設定する機能(撮影編)

メニュー名	サブメニュー名	選択項目	初期値
録画モード	なし	SP/LP	SP
ワイプ効果	なし	切/ワイド/シネマ	切
ズーム	なし	10倍/20倍/100倍	20倍
手ぶれ補正	なし	入/切	入
感度アップ	なし	オート/AGC	オート
フラッシュ	なし	オート/切	オート
日時設定	オンスクリーン	切/入	切
	日時表示	切/入	入
	年月日 時計	現在の年月日、時刻 を表示	出荷時に既定の年月日、時刻 を設定
	記念写真	フク有り/フク無し	フク有り
	シーン	SS/SSD/アニメ	SS
	ブザー/タリ	入/切	入
システム設定	ボイスポジション	切/オート	切
	音声モード	32kHz/48kHz	32kHz
	IDナンバー	01~99まで設定可能	06

●メニューボタン(P27)を押して設定する機能(再生編)

メニュー名	選択項目	初期値
48kHz音声	フル音/音声1/音声2	フル音声
32kHz音声	フル音/音声1/音声2	音声1
シンクロ補正	-1.3~+1.3	0.0
日時表示	入/切	入
タイムコード	切/入	切

●選択ダイヤル(P27)で設定する機能

メニュー名	選択項目	初期値
フォーカス	オート/マニュアル	オート
明るさ補正	オート/マニュアル	オート
白バランス	オート/マニュアル(☀️🌙🌧️🌨️)	オート
場面切替	フェーダー：白、フェーダー：黒、フェーダー：白黒、フェーダー：モザイク、ワイプ：コーナー、ワイプ：ウィンドウ、ワイプ：スライド、ワイプ：ドア、ワイプ：スクロール、ワイプ：シャッター、ランダム、オーバーラップ	切
演出効果	ブラック/ホワイト、セピア、映画効果、夜景、ゴースト、ストロボ、高感度4倍、高感度10倍、シャッター1/60、シャッター1/100、シャッター1/250、シャッター1/500	切
フラッシュ明るさ	-3~+3まで設定可能	±0

6.5 わからない言葉があったときは

用語	解説
アイリス	人間の目と同じ働きをします。人間の目は光が強いところでは瞳が縮み、光がたくさん入らないようにします。逆に暗いところでは瞳が広がり、光をたくさん入れるようにします。 アイリスはそれらの機能をムービーで電氣的に行うものです。
色温度	被写体を照らす光には、赤っぽい色や青っぽい光など、さまざまな質があります。この光の色合いを示す基準を色温度と言います。
ACアダプター	バッテリーを充電するときに使用します。また、直接ムービーに接続して電気を供給することもできます。
オートフォーカス	初めてムービーを使う人が苦手とするピント合わせを自動で行います。
オンスクリーン	液晶画面のメッセージ表示などを、ムービーなどに接続したテレビに映すことができます。
カメラリハーサル	テープを入れずに電源ダイヤルを A 、 M などになると、ムービーで撮っている映像を液晶画面やファインダーで見ることができます（カメラリハーサル状態）。この状態でムービーをテレビなどに接続すれば、映像をムービー以外の外部映像機器で見ることができます。
撮影一時中止	撮影を一時的に中止している状態を指します。撮影ボタンを押せば撮影がスタートします。
白バランス	照明がコウソクの時と蛍光灯の時では人間の目で見て同じ色でもムービーで撮ると違った色になります。白バランスはそれを自然な色合いに調節する機能です。
つゆつき	温度変化などにより、ムービー内部に水滴が付着する状態を指します。つゆつきが生じると、液晶画面に W が表示され、ムービーは停止します。
デジタルズーム	レンズの性能で拡大した映像（10倍まで）を、デジタル処理でさらに拡大する機能です。20倍、または100倍ズームが可能です。
手ぶれ補正	ムービーを手で持って撮影するときに生じる比較的小さな揺れを自動的に補正する機能です。
フェーダー （フェード）	映像の場面切替に使われるテクニックの1つです。映画やテレビの映像で、映像が徐々に隠れて消えていくことをフェードアウト、徐々に浮かび上がってくることをフェードインと呼びます。
NTSC	テレビの方式の1つで、日本、アメリカ、カナダ、メキシコ、台湾などがこの方式を採用しています（P120）。このほかにPAL（ヨーロッパなど）、SECAM（フランス）の方式があります。
ワイプ	映像の場面切替に使われるテクニックの1つで、映像が拭き取られるように消えていくことをワイプアウト、映像が拭き取られるようにして次の場面があらわれることをワイプインと言います。

6.6 索引

●数字、アルファベット順

32kHz 86,87,93,110,111
 32kHz 音声切替 86
 48kHz 86,87,110,111
 48kHz 音声切替 86
 5S 110
 5SD 110
 5秒撮りモード 44,53
 ACアダプター
 25,35,40,58,125
 AGC 62
 AV出力とヘッドホン端子 26
 DCコード 25,28,40,41
 DC出力端子 29

DC入力端子 26,29
 DV方式 16,17
 IDナンバー 111
 JLIP 111
 JLIP端子 29
 JLIPプレーヤーバック 111
 LP 62
 LPモード 17
 MULTI端子カバー 28
 NISTC方式 120,125
 REC 17
 S2(映像)出力端子 29
 S2出力端子 92,100

SAVE 17,39
 SP 62
 S映像コード 25,100,92
 S入力端子 100
 T側 51
 [T] ズームボタン 31
 W側 51
 [W] ズームボタン 31

●50音順

【あ】

アイリス 125
 明るさ補正 68
 アニメ 110
 アフレコ編集 93
 アフレコボタン 31
 一時停止ボタン 31,99
 入/切ボタン 31
 色温度 72,125
 インサート編集 95
 インサートボタン 31,95
 映画効果 80
 映像/音声コード 25,57
 映像出力端子 29
 液晶画面 27,32,42,43
 演出効果 79,81,91,101,105
 演出効果入/切ボタン 31,91
 演出効果ボタン 31,102
 オートフォーカス 125
 オーバーラップ 74
 オンスクリーン 114,125
 音声 111
 音声1 87
 音声2 87

音声切替ボタン 31
 音声出力端子 29
 音声モード 110
 音量スイッチ 27

【か】

カセットホルダー 26,38
 カメラリハーサル 48,125
 画面表示入/切ボタン 27
 画面表示ボタン 31
 感度アップ 62,64
 記念写真 110
 記念写真撮影 52
 記念写真ボタン 27,52
 切り 70
 クリッピングクロス 24
 高感度10倍 80
 高感度4倍 80
 ゴースト 80
 ここから/ここまでボタン
 31,101,102
 コピーガード付きテープ 56
 コンセント 120

【さ】

再生 55,57,59
 再生画面 88,89,90,91

再生ボタン 27,31,55,99
 撮影一時中止 125
 撮影機能 62,65
 撮影中ランプ(タリーランプ)
 26
 サブ記念写真ボタン 27
 サブブック 38
 三脚取り付けネジ穴 28
 シーン 110,111
 システム設定 62
 システム設定メニュー
 110,112
 自動編集 97,100,105
 自動編集入/切ボタン 101
 シネマ 62
 シネマ映像 63
 シフトボタン 31,90,99
 シャッター 1/100 79
 シャッター 1/250 79
 シャッター 1/500 79
 シャッター 1/60 79
 修正ボタン 31
 上下左右ボタン 90
 白バランス 125
 白バランスセンサー 26,70

シンクロ補正 106,107
 ズーム 62,63,90
 ズーム機能 51
 ズームスイッチ 27
 スタート/ストップボタン
 27,31,47,53,54,95,103
 ステンオマイク 26
 ストラップフック 26,37,38
 ストロボ 80
 スピーカー 27
 スロー (正転) ボタン/右ボタ
 ン 31
 スローボタン 56
 スロー (逆回転) ボタン/左ボ
 タン 31
 静止画再生 56
 設定ボタン 31
 セピア 80
 セルフタイマー撮影 54
 セルフタイマーモード 44,54
 選択ダイヤル 27
【た】
 タイムコード 50,89,104
 画面撮影 49
 タビング 92,101
 端子カバー 26
 (消去防止) ツマミ 17
 つゆつき 19,125
 停止ボタン 27,31,99
 テープ 38
 デジタルズーム 125
 デジタルビデオヘッドクリー
 ナー 118
 手ぶれ補正 62,64,125
 テレビ 57,58,59
 電源 42
 電源ダイヤル 27,42,43
 電池 20,40,41
 ドアロック 27
 ドアロックボタン 38
 ドッキングステーション
 25,59,100
 取り付けネジ 28
【な】
 日時設定 63
 日時設定メニュー 114

日時表示 88,114
 ネジハンドル 28
 年月日 時計 114
【は】
 バッテリー 35,37
 バッテリーカバー 27,37
 バッテリーケース 25,28,41
 バッテリーパック 25,41
 場面切替 73,101
 場面切替ボタン 31,102
 早送りボタン 27,31,99
 晴れ 70
 ハンドストラップ 24,37
 ハンドストラップ取り付け部
 28
 ビデオ 100
 ビデオ準備ボタン 31,103
 ビデオデッキ 57,58,59,92,97
 ビデオデッキのメーカー名 97
 ビデオライト 70
 秒表示 50
 ファインダー 27,42,43,46
 フェーダー (フェード) 125
 白 73
 白黒 73
 黒 73
 モザイク 73
 フォーカス 66
 プザールタリ 110
 フラッシュ 52,62,64,83
 フラッシュ明るさ 83
 フラッシュ (センサー内蔵)
 26,
 フルオートモード 44,46
 フル音声 87
 フレーム表示 50
 分表示 50
 ヘッド 118
 ヘッド目づまり表示 118
 変換プラグ 120
 編集コード 25
 編集端子 29
 ボイスポジション 110,111
 ホルダー 38
【ま】
 マイク入力端子 26

巻戻しボタン 27,31,55,99
 マニュアルフォーカス 66
 マニュアルモード 44
 ムービー 24,92
 無記録部分 50
 メーカー別リモコン設定表 98
 メニューボタン 27,124
【や】
 夜景 79
【ら】
 ランダム 74
 リセットボタン 27,34,121
 リチウムイオンバッテリー 18
 リモートボーズ (入力) 端子
 31
 リモコン 25,30,40,90,91,97,100
 リモコン受光部 26
 リモコンの再生ボタン 93
 リモコン用ボタン電池 25
 リング 26
 レンズシャッター 26
 録画モード 62,63
 ロックレバー 29,58
【わ】
 ワイド 62
 ワイド映像 63
 ワイド効果 62,63
 ワイプ 125
 ウィンドウ 73,74
 コーナー 73,74
 シャッター 73,74
 スクロール 73,74
 スライド 73,74
 ドア 73,74
 ワク有り 110
 ワク無し 110
 ワンタッチ 70,71

6.7 主な仕様

【一般仕様】

項目	仕様
電源	DC 6.3 V (ACアダプター使用時) DC 7.2 V (バッテリー使用時)
消費電力	6.2 W (ファインダー使用時) 7.0 W (液晶画面使用時)
規格	DV方式 (SD仕様)
信号方式	NTSC 30 米標準信号
使用テープ	Mini DV テープ
録画時間	SPモード：60分、LPモード90分 (DVM-60テープ使用時)
巻き戻り・巻戻し時間	約100秒 (DVM-60使用時)
撮像素子	CCD固体撮像素子 57万画素 (撮像エリア約33万画素)
ズーム倍率	光学ズーム倍率10倍、総ズーム倍率100倍 (デジタルズーム使用)
レンズ	F1.6、 $f=4.5\sim45$ mm 10倍ズームレンズ、フィルター径27 mm (ネジピッチ0.5 mm)
液晶画面	2.5型、18万画素、ポリシリコンTFT LCDパネル
ファインダー	0.55型、11.3万画素、LCDパネル
最低照度	14 lx (ルクス)、7 lx (シャッター1/30秒時)
内蔵マイク	コンデンサータイプ/ステレオ
許容動作温度	0~40℃
許容相対湿度	35~80%
許容保存温度	-20~50℃
外形寸法	幅約49×高さ約131×奥行き約93 mm (液晶画面、ファインダー収納時)
質量	本体質量 約500 g (端子カバー、ハンドストラップを除く) 撮影時質量 約590 g (バッテリーBN-V907、テープM-DV30ME含む)

オーディオ仕様

項目	仕様
サンプリング周波数	48 kHz/32 kHz、44.1 kHz (再生のみ)
チャンネル数	2チャンネル (48 kHz)
	4チャンネル (32 kHz)
量子化ビット数	16 bit直線 (48 kHz)
	12 bit非直線 (32 kHz)
スピーカー	モノラルタイプ

端子部仕様

項目	仕様
マイク入力端子	$\phi 3.5$ mmミニプラグ -62 dBs ステレオ
音声出力 (AUDIO) / ヘッドホン端子	$\phi 3.5$ mmミニプラグ (-8 dBs、1 k Ω) ステレオ/アナログ出力
映像出力 (VIDEO) 端子	$\phi 3.5$ mmミニプラグ (1 Vpp、75 Ω) アナログ出力
DC入力端子	6.3 V
マルチ端子	42 ピン

6.8 保証とアフターサービス

● 保証書（別途添付） ●

保証書は、「お買上げ日」「販売店名」等が記入されていることをご確認の上（通常は販売店が記入します）、内容をよくお読みになってから大切に保管してください。保証期間はお買上げ日から1年間です。

● 補修用性能部品の最低保有期間 ●

当社は通商産業省の指導により、ムービーの補修用性能部品を、製造打ち切り後、最低8年間保有しています。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 修理を依頼されるときは（持込修理） ●

「故障かな？ とお考えになる前に」(P121)でご確認いただき、なお異常が認められるときは、電源を切った上で、お買上げの販売店に修理をご依頼ください。

ただし、万一、本機、およびデジタルビデオカセット等の不具合により、正常に録画、録音できなかった場合の内容の補償につきましては、当社では一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

● 保証期間中の修理は ●

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規約に従って販売店にて修理させていただきます。

● 保証期間終了後の修理は ●

修理可能な場合は、ご希望に応じて修理させていただきます。

● 修理に際してご連絡していただきたい内容 ●

品名 デジタルビデオムービー

型名 GR-DVX

お買い上げ日 年 月 日

故障の状況 できるだけ具体的に

ご住所

お名前

電話番号

● 長年ムービーをご使用の際は点検を行ってください ●

重要点検

長年ご使用のムービーの点検をぜひ！

熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合により部品が劣化し、故障したり、時には安全性を損なうて事故につながることもあります。



このような
症状は
ありませんか

- 再生しても映像や音が出ない。
- 異常な臭いや音がある。
- 水や異物が入った。
- その他の異常や故障がある。



ご使用
を
中 止

故障や事故防止のため、
電源を切り、必ず販売店
に点検をご相談ください。

- 故障かな？ とお考えになる前に修理に出す前に121～123ページをご確認ください。
- 修理についてのご相談は「お買い上げ販売店」へご相談ください。ご移転などで保証書記載のお買い上げ販売店に修理をご依頼になれない場合、別紙「サービス窓口案内」にご相談ください。
- お買物についてのご相談はお取り扱い方法、お手入れ方法その他ご不明な点は「お客様ご相談センター」にご相談ください。

お客様ご相談センター

東京	TEL (03) 5684-9311
〒113 東京都文京区本郷3丁目14-7 ビクター本郷ビル	
大阪	TEL (06) 765-4161
〒543 大阪市天王寺区小橋町10-16 大阪ビクタービル	



 **Victor**  **JVC**
日本ビクター株式会社

ビデオ事業部 〒221 横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地 TEL (045) 450-2550